

18
784

小山作之助校閱
石垣六三郎著

教科新撰樂典問答
適用

二書房發行

18-784

教科
適用

新撰樂典問答

小山作之助校閱
石垣六三郎著

明治
47 1 22
丙午

二書房發行

教科
適用
新撰
樂典
問答

緒
言

ルーミス氏は英國の人にして著名なる音楽家なり。其の著
はす處の唱歌集早く我邦にも紹介されたりしが、書中に挿
める樂典復習問答は初學生徒の備忘用にして能く要を適
し記憶に至便なり。普通學校に於ける樂典教授は此の手段
により條を追ひ、簡單なる説明に止むるを最も適當なりと
信じ、之を譯して多年講習會其他初歩の學生に試み、頗る良
結果を得たり。是に於て今回更に氏の案を基とし、上編三百
七ヶ條下編百九ヶ條を選び、且つ圖をも加へ専ら師範學校、
高等女學校、及講習會等に於ける樂典の教科書或は筆記代
用たらしめたり。幸に門に入るの階梯たるを得、樂理の一般

を窺ふを得ば、予の本懐とする處なり。……
本書の成りて上梓するに至れるは、一に小山作之助先生の
賜なり。先生予の意を諒し親しく教を與へられ、且つ多忙の
間、訂正校閲の勞を執られたるは、予の深く感銘に堪へざる
處、特に記して其の恩を謝するものなり。

明治四十年十二月

著者

凡例

- 一、本書は、主として、師範學校、高等女學校の教科に充てんと
して編せるものなれども、亦一般の參考書としての注意
をもなせるものなり。
- 一、本書上編は、二ヶ年間に、下編は最上級一ヶ年に授くべき
ものとす。
- 一、努めて簡單を主として記述せるを以て、充分布衍して説
明せられんことを望む。
- 一、問答順序は、主としてルーミス氏の案に基きたるを以て、
他の書と異なる處あり。

目次

| | | |
|--------------------|----------------|------|
| 音 | 第一章 音の性質に関する問答 | 一ヨリ三 |
| 樂音 | | 一 |
| 音の性質 | | 二 |
| | | 三 |
| 第二章 長さに関する問答 | 四ヨリ四二 | |
| 長さに對する名稱の附け方 | 四 | |
| 音符及其の名 | 五ヨリ六 | |
| 黙符及其の名 | 七ヨリ八 | |
| 長さに關して音符以外に用ひらるゝ記號 | 九ヨリ一四 | |
| 小節 | 一五ヨリ一六 | |
| 單縱線及複縱線 | 一七ヨリ一八 | |

拍節

小節の種類及其の拍節法

小節内の強弱

拍子及拍子記號

メトロノーム

切分音

第三章 高さに関する問答

高さに対する名稱の附け方

絶對的高度及其の名稱

關係的高度及其の名稱

音階及其の唱へ方

譜表と音度

短線及短間

二

一九

二〇ヨリ三〇

三一ヨリ三二

三三ヨリ三九

四〇ヨリ四一

四二

四三ヨリ二六〇

四三ヨリ四四

四五ヨリ四六

四七ヨリ四八

四九ヨリ五四

五五ヨリ五九

六〇ヨリ六二

音部記號

大譜表

一音程及半音程

音階の一定形式

八音及音階各度の特別名稱

音階の高度

第一の音階及音階の名稱

模範音階

中間音及其の名稱

嬰變及本位記號

半音階

全音階の二種

短音階の形式

六三ヨリ七三

七四

七五ヨリ七七

七八ヨリ八〇

八一ヨリ八三

八四

八五ヨリ八六

八七ヨリ八八

八九ヨリ九九

一〇〇ヨリ一〇三

一〇四ヨリ一〇七

一〇八ヨリ一一〇

一一一ヨリ一一二

三

| | |
|-----------------|----------|
| 短音階用臨時音 | 一一三 |
| 關係音階 | 一一四ヨリ一二六 |
| 短音階の唱へ方 | 一一七 |
| 臨時音の唱へ方 | 一一八 |
| 半音階的半音及全音階的半音 | 一一九ヨリ一二〇 |
| 平均律 | 一二一 |
| 高度の異なる音階 | 一二二 |
| 調子記號 | 一二三ヨリ一二六 |
| 嬰種長音階第一及其の關係短音階 | 一二七ヨリ一三九 |
| 全第二及其の關係短音階 | 一四〇ヨリ一四五 |
| 全第三及其の關係短音階 | 一四六ヨリ一五二 |
| 全第四及其の關係短音階 | 一五三ヨリ一五七 |
| 全第五及其の關係短音階 | 一五八ヨリ一六二 |

| | |
|-----------------|----------|
| 全第六及其の關係短音階 | 一六三ヨリ一六七 |
| 全第七及其の關係短音階 | 一六八ヨリ一七〇 |
| 嬰種音階組立に就ての規則 | 一七一ヨリ一七二 |
| 變種長音階第一及其の關係短音階 | 一七三ヨリ一八〇 |
| 全第二及其の關係短音階 | 一八一ヨリ一八五 |
| 全第三及其の關係短音階 | 一八六ヨリ一八九 |
| 全第四及其の關係短音階 | 一九〇ヨリ一九三 |
| 全第五及其の關係短音階 | 一九四ヨリ一九七 |
| 全第六及其の關係短音階 | 一九八ヨリ二〇一 |
| 全第七及其の關係短音階 | 二〇二ヨリ二〇五 |
| 變種音階組立に就ての規則 | 二〇六ヨリ二〇八 |
| 四分音階的變化 | 二〇九ヨリ二一五 |
| 重嬰及重變 | 二一六ヨリ二二四 |

| | |
|------------------------------|----------|
| 十四音程 | 二二五ヨリ二二六 |
| 複音程 | 二二七ヨリ二二八 |
| 旋法及旋律 | 二二九ヨリ二三〇 |
| 異なれる八音の音名の書き方 | 二三一ヨリ二四〇 |
| Sva 及 Loco | 二四一ヨリ二四二 |
| 音樂に用ひらるゝ樂音の數 | 二四三ヨリ二四五 |
| 人聲の種別及其の音域 | 二四六ヨリ二五二 |
| 各音部の譜表 | 二五三ヨリ二五九 |
| 合唱 | 二六六 |
| 第四章 反覆記號及樂曲の強弱速度曲想に關する記號並に標語 | 二六一ヨリ二八七 |
| 反覆記號の種類 | 二六一ヨリ二六五 |
| 結尾の語 | 二六六 |

| | |
|-------------|----------|
| 強弱に關する記號及標語 | 二六七ヨリ二七九 |
| 速度に關する標語 | 二八〇 |
| 曲想に關する標語 | 二八一ヨリ二八七 |

第五章 轉調及和絃に關する問答

| | |
|------------|----------|
| 轉調の義 | 二八八ヨリ三〇七 |
| 轉調すべき普通の場合 | 二八八ヨリ二九一 |
| 經過音 | 二九二ヨリ三〇一 |
| 和絃の義 | 三〇二 |
| 三和音 | 三〇三 |
| 七の和絃 | 三〇四ヨリ三〇五 |
| | 三〇六ヨリ三〇七 |

上編 目次 畢

教科 新撰樂典問答

第一章 音の性質に関する問

一 音とは如何なるものか。

二 樂音とは何か。

三 音には幾つの性質があるか。

第二章 長さに関する問

四 音の長さに就ては如何に名づけらるゝか。

五 如何にして音の長さを可視的に表はすか。

六 音符の名稱は如何にしてつけるか。

七 黙符とは何か。

八 黙符には幾種あるか而して如何に名づけらるゝか。

九 音長を示すために音符以外に用ひらるゝ記號は何か。

一〇 音符又は黙符の後に一點の附けられた時は如何に長さが變ずるか。

- 一一 複點が附けられた時は如何に其の長さが變ずるか。
- 一二 變拍子記號が附けられた時は如何に。
- 一三 タイとは如何なるものにして又如何なる用あるか。
- 一四 ポースは何を示すか。
- 一五 音の長き連りは如何に區劃さるゝか。
- 一六 小節は如何にして示さるゝか。
- 一七 單縱線とは如何なるものか。
- 一八 複縱線は何を示すか。
- 一九 拍節とは何か。
- 二〇 普通に用ひらるゝ小節の種類は幾種あるか。
- 二一 何々と云ふか。
- 二二 何によりて區別されしか。
- 二三 二つの單位を有する小節を何といふか。
- 二四 二拍小節は如何に拍節するか。
- 二五 三つの單位を有する小節を何といふか。

- 二六 如何に拍節するか。
- 二七 四つの單位を有する小節を何といふか。
- 二八 如何に拍節するか。
- 二九 六つの單位を有する小節は何といふか。
- 三〇 如何に拍節するか。
- 三一 各種の小節に於て強聲部は何れの單位にあるか。
- 三二 此等の各種の小節は趣味に於て各々異なるものあるか。
- 三三 拍子とは何か。
- 三四 四種の小節は皆各々單一なるものか。
- 三五 普通に用ひらるゝものは幾種づゝあるか。
- 三六 此等の種々の小節は何によりて其種別を示すか。
- 三七 分子は何を示すか又分母は何を示すか。
- 三八 此等の拍子を表はす記號を何といふか。
- 三九 拍子記號として屢々C又はΦの如き記號を用ふるは如何なる意味か。
- 四〇 メトロノームとは何か。

四一 $\text{♩} = 80$ は何を示すのか。

四二 切分音とは何か。

第三章 高さに関する問

四三 音の高度とは何の意味か。

四四 音の高度に就ては如何様に名づけらるゝか。

四五 音それ自身の一定したる固有の高さを何といふか。

四六 絶對的の高度の名稱は如何に。

四七 音と音との關係の上より見たる高さを何といふか。

四八 關係的の高度の名稱は如何に。

四九 或る一定の順序によりて排列の整頓せられたる關係的の高度の連續を何といふか。

五〇 音階には幾つの音を含むか。

五一 音階を唱ふるに何といふか。

五二 何のため此等の唱へ方が唱歌に於て用ひらるゝか。

五三 何時誰人が此の唱へ方を始めたか。

五四 關係的の高度の名は八つあるに絶對的の高度の名の七つなるは何故か。

五五 音の高低は何によりて判るか。

五六 譜表とは如何なるものか。

五七 譜表の各線及各間を何といふか。

五八 譜表には幾つの音度があるか。

五九 度は何れより計ふるか。

六〇 九つより多く記載せんとする時如何にするか。

六一 増加されたる線又は間を何といふか。

六二 短線又は短間によりて作られたる音度は如何に計ふるか。

六三 譜表は直ちに音の確定したる絶對的の高度及關係的の高度を表はすか。

六四 譜表上に如何にして音の絶對的の高度が確定するか。

六五 此等の文字は何を表はすのか。

六六 此等の文字は他に如何なる効用あるか。

六七 斯く用ひらるゝ文字を何といふか。

六八 如何なる文字が最も多く普通に用ひらるゝか。

六九 此等の文字の代りに用ひらるゝ記號は如何。

七〇 (ト)字の記號を用ふる時は通常譜表の何處に書くか。

七一 (ト)字の記號が記載せられたる時 (ハ)音はどの度に當るか。

七二 (ヘ)字の記號は何處に書くか。

七三 (ヘ)字の記號が記載せられたる時 (ハ)音はどの度に當るか。

七四 大譜表とは如何なるものか。

七五 或る二つの音の高度の差を何といふか。

七六 一つの音階中にある音程は皆等一か。

七七 何々といふか。

七八 音階中には一音程半音程各幾つ宛あるか。

七九 其排列の順序は必要か。

八〇 其固有の順序は如何。

八一 八音とは如何なる意味か。

八二 音階の第一音として置かるゝ音を何といふか。

八三 音階の各音に附せられたる特別の名稱あるか。

八四 音階の高度は常に同一ならねばならぬか。

八五 第一の音階の主音は何か。

八六 音階の名は何によりて附けらるゝか。

八七 第一の音階とし又模範の音階となすは何調か。

八八 (ハ)調音階を作る諸音は何々か。

八九 音階中の音と音との間に中間音を作り得るは幾つか。

九〇 何處に作らるゝか。

九一 名は如何にして附けらるゝか。

九二 中間音が第一音と第二音との間に作られたる時第一音よりいへば何といふか。

九三 此場合に嬰とは如何なる意味か。

九四 此中間音は第二音よりいへば何といふか。

九五 此場合に變とは如何なる意味か。

九六 此嬰第一音と變第二音とは高度は同一か。

- 九七 同一の高度なるに何故に名を異にせるか。
- 九八 (ハ)音と(ニ)音との中間音は(ハ)音より云へば何と云ふか。
- 九九 (ニ)音より云へば何と云ふか。
- 一〇〇 嬰音は如何なる記號によりて示さるゝか。
- 一〇一 變音は如何なる記號によりて示さるゝか。
- 一〇二 嬰又は變の効力は其の附せられたる音符に對してのみか。
- 一〇三 此等の効力を取消すに如何なる記號を用ふるか。
- 一〇四 半音階には幾つの音があるか。
- 一〇五 幾つの音程があるか。
- 一〇六 其の音程は皆等一か。
- 一〇七 一音程か半音程か。
- 一〇八 八個の音より成る音階を何といふか。
- 一〇九 全音階的音階には幾種あるか。
- 一一〇 如何に異なるか。
- 一一一 短音階の形式は一つか。

- 一一二 何々と名附けらるゝか。
- 一一三 短音階用臨時音とは何か。
- 一一四 短音階が長音階と親密なる關係を有するは如何なる場合にか。
- 一一五 長音階が短音階と親密なる關係を有するは如何なる場合にか。
- 一一六 (ハ)調長音階と親密なる關係を有する短音階は何調か。
- 一一七 長音階及短音階は皆其の第一音をDOとし他は之に準して唱ふるか。
- 一一八 音階中の或音の嬰又は變の附せられたる時如何に之を唱ふるか。
- 一一九 (ハ)音より嬰(ハ)音に至ると嬰(ハ)音より(ニ)音に至るとは同じ半音なるか。
- 一二〇 全音階的半音と半音階的半音とは如何に異なるか。
- 一二一 風琴又は洋琴の如く一個の音にて嬰變共通せる者を何と云ふか。
- 一二二 高度の異なる音階を作らんとするに如何にして必要なる音程の一定順序が保たるゝか。
- 一二三 諸種の調子は如何なる仕方によりて示さるゝか。
- 一二四 此嬰又は變は如何なる意味を表はすのか。
- 一二五 此嬰又は變を何と云ふか。

- 一三六 (ハ)調の調子記號は如何。
- 一三七 最初に移る音階の第一音は何か。
- 一三八 (ハ)調に於て(ト)音は第何音か。
- 一三九 (ト)調を作る諸音は何々か。
- 一三〇 何故に嬰(ヘ)音を要するか。
- 一三一 (ト)調音階の諸音中(ハ)調音階に含まぬ音は何か。
- 一三二 (ハ)調音階の諸音中(ト)調音階に含まぬ音は何か。
- 一三三 關係短音階は長音階の第何音より始まるか。
- 一三四 然らば(ト)調長音階の關係短音階は何か。
- 一三五 (ト)調長音階の調子記號は如何。
- 一三六 (ホ)調短音階の調子記號は如何。
- 一三七 (ト)調長音階と(ホ)調短音階とは何故に同一の調子記號を有するか。
- 一三八 樂曲の調子は如何にして知るか。
- 一三九 樂曲は通常其の音階の第何音に始まり又終るか。
- 一四〇 第二番目に作る長音階の第一音は何か。

- 一四一 (ニ)音は(ト)調の第何音か。
- 一四二 (ニ)調長音階を作る諸音は何々か。
- 一四三 何故に第七音に嬰(ハ)音を要するか。
- 一四四 (ニ)調長音階の關係短音階は何か。
- 一四五 (ニ)調長音階及(ロ)調短音階の調子記號は如何。
- 一四六 第三番目に作る長音階の第一音は何か。
- 一四七 (イ)音は(ニ)調の第何音か。
- 一四八 (イ)調長音階を作る諸音は何々か。
- 一四九 (イ)調長音階の關係短音階は何か。
- 一五〇 (イ)調長音階及嬰(ヘ)調短音階との調子記號は如何。
- 一五一 (イ)調長音階の第三音は(ト)調長音階にては第何音か。
- 一五二 (ニ)調長音階にては第何音か。
- 一五三 第四番目に作る音階の第一音は何か。
- 一五四 (ホ)音は(イ)調の第何音か。
- 一五五 (ホ)調長音階を作る諸音は何々か。

- 一五六 (ホ) 調長音階の關係短音階は何か。
- 一五七 (ホ) 調長音階及嬰(ハ)調短音階の調子記等は如何。
- 一五八 第五番目に作る音階の第一音は何か。
- 一五九 (ロ) 音は(ホ)調の第何音か。
- 一六〇 (ロ) 調長音階を作る諸音は何々か。
- 一六一 (ロ) 調長音階の關係短音階は何か。
- 一六二 (ロ) 調長音階及嬰(ハ)調短音階の調子記號は如何。
- 一六三 第六番目に作る音階の第一音は何か。
- 一六四 嬰(ハ)音は(ロ)調の第何音か。
- 一六五 嬰(ハ)調長音階を作る諸音は何々か。
- 一六六 嬰(ハ)調長音階の關係短音階は何か。
- 一六七 嬰(ハ)調長音階及嬰(ニ)調短音階の調子記號は如何。
- 一六八 嬰(ハ)調長音階の第五音を第一音として第七番目に作る長音階は何調か。
- 一六九 其の關係音階は何か。
- 一七〇 嬰(ハ)調長音階及嬰(イ)調短音階の調子記號は如何。

- 一七一 第五度によりて順次に組立てられたる音階の調子記號には何が用ひらるゝか。
- 一七二 嬰種音階の組立てに就て記憶すべき事は何か。
- 一七三 (ハ) 調長音階の第四音は何か。
- 一七四 (ハ) 音より(ハ)音までは何度か。
- 一七五 (ハ) 音を第一音として音階を作れば如何なる音が排列さるゝか。
- 一七六 (ロ) 音を用ひずして何故に變(ロ)音を用ふるか。
- 一七七 若し變(ロ)音の代りに(ロ)音を用ふれば此音階の第三音と第四音との間は何になるか。
- 一七八 又第四音と第五音との間は何になるか。
- 一七九 (ハ) 調長音階の關係短音階は何か。
- 一八〇 (ハ) 調長音階及(ニ)調短音階の調子記號は如何。
- 一八一 (ハ) 調長音階の第四音を第一音として作る長音階は何調か。
- 一八二 變(ロ)調長音階を組立つる諸音は何々か。
- 一八三 變(ロ)調長音階の諸音中(ハ)調に含まぬ音は何か。

- 一八四 變(口) 調長音階の關係短音階は何か。
- 一八五 變(口) 調長音階と(ト) 調短音階との調子記號は如何。
- 一八六 變(口) 調長音階の第四音を第一音として第三番目に作る長音階は何調か。
- 一八七 變(ホ) 調長音階を組立つる諸音は何々か。
- 一八八 變(ホ) 調長音階の關係短音階は何か。
- 一八九 變(ホ) 調長音階及(ハ) 調短音階の調子記號は如何。
- 一九〇 變(ホ) 調長音階の第四音を第一音として第四番目に作る長音階は何調か。
- 一九一 何々の諸音にて作らるゝか。
- 一九二 其の關係短音階は何か。
- 一九三 其の調子記號は何か。
- 一九四 第五番目に組立つる長音階は何か。
- 一九五 何々の諸音にて作らるゝか。
- 一九六 其の關係短音階は何か。
- 一九七 其の調子記號は如何。
- 一九八 第六番目に組立つる長音階は何か。

- 一九九 何々の諸音にて作らるゝか。
- 二〇〇 其の關係短音階は何か。
- 二〇一 其の調子記號は如何。
- 二〇二 第七番目に組立つる長音階は何か。
- 二〇三 何々の諸音にて作らるゝか。
- 二〇四 其の關係短音階は何か。
- 二〇五 其の調子記號は如何。
- 二〇六 第四度によりて組立てらるゝ音階の調子記號には何が用ひらるゝか。
- 二〇七 變種音階の組立てに就て記憶すべき事項は何々か。
- 二〇八 長音階及短音階は變種變種を合せて各幾種となるか。
- 二〇九 變(ト) 音を他の音名にて云へば何と云ふべきか。
- 二一〇 斯く高度の變化なくして名稱を異にするを何と云ふか。
- 二一一 四分音階的變化により長音階の數を減じ得るか。
- 二一二 變(ト) 調長音階の第四音は何か。
- 二一三 四分音階的變化によれば變(ハ) 音は何となるか。

- 二二四 變(ト)調長音階に於て何故に第四音に(口)音を用ひぬか。
- 二二五 變(ト)音と嬰(ヘ)音とは如何にして其の異なるを知るか。
- 二二六 (ト)調長音階の第三音に變を附すれば如何。
- 二二七 重變は如何に記載するか。
- 二二八 四分音階的變化によれば重變(口)音は何となるか。
- 二二九 重變(口)の代りに何故に(イ)と云はぬか。
- 二三〇 變(ト)調長音階に於て(イ)音は如何なる關係を有するか。
- 二三一 重變(口)音を變(口)音となすには如何に記載するか。
- 二三二 重嬰音とは如何なるものか。
- 二三三 如何に記載するか。
- 二三四 重要が取消さるゝときは如何に記載さるゝか。
- 二三五 全音階に於て各音より各音に至る音程を悉く作らば幾種の音程となるか。
- 二三六 何々と云ふか又其の各が含む處の全音及半音は如何。
- 二三七 八度を超へたる音程を何といふか。

- 二三八 複音程は如何にして計ふるか。
- 二二九 旋法とは何か。
- 二三〇 旋律とは何か。
- 二三一 音階の第八音より高き部分を歌ふ時其の第八音は次に歌ふべき音階に對して如何なる關係となるか。
- 二二三 音階の第一音より低き部分を歌ふ時其の第一音は次に歌ふべき音階に對して如何なる關係となるか。
- 二二三 如何なる方法によりて異なる高低二つの音階又はオクターブを識別するか。
- 二三四 (ト)字記號を置かれたる譜表の下第一線より起る七音の音名は如何に書くか。
- 二三五 此上に位する七音は如何に書くか。
- 二三六 それ以上は如何に書くか。
- 二三七 譜表上無點の七音は何處より何處までか。
- 二三八 無點(ハ)音の下方にある七音は如何に書くか。

- 二三九 次の下方に位する七音は如何に書くか。
- 二四〇 それ以下の七音は如何に書くか。
- 二四一 *Sua* は何を示すか。
- 二四二 *loco* とは何の意味か。
- 二四三 耳にて聴き得べき音は幾オクターフ位か。
- 二四四 如何なる楽器に此等の多数の音があるか。
- 二四五 普通のピアノに用ひらるゝ音域は如何。
- 二四六 人聲の音域とは何の意味か。
- 二四七 人聲は幾種に大別さるゝか。
- 二四八 此等の人聲の音域はどの位宛か。
- 二四九 男聲と女聲との高さはどれ程違ふか。
- 二五〇 小兒の聲も亦男女に依て異なるか。
- 二五一 四聲部とは何か。
- 二五二 此等の四聲部の各音域は普通如何に定めらるゝか。
- 二五三 譜表上(へ)字記號の置かれたる場處は何音か。

- 二五四 (へ)字記號の置かれたる譜表は何音部を記すに用ふるか。
- 二五五 然らば(へ)字記號は又一名何といふべきか。
- 二五六 譜表上(ト)字記號の置かれたる場處は何音か。
- 二五七 (ト)字記號の置かれたる譜表は何音部を記載するか。
- 二五八 (ト)字記號を又一名何といふか。
- 二五九 中音部及次中音部を記載すべき譜表はなきか。
- 二六〇 合唱とは如何なる意味か。

第四章 反覆記號及樂曲の強弱、速度、曲想等に關する記號並に標語

- 二六一 樂曲の一部分を二回歌はんとするとき如何にして之を示すか。
- 二六二 普通に用ひらるゝ反覆記號は幾種あるか。
- 二六三 點は何を示すか。
- 二六四 *D.C.* は如何なる意味か。
- 二六五 *D.S.* は如何なる意味か。

- 二六六 *Fine* は如何なる意味か。
- 二六七 中庸の強度に於て發聲すべきを示すには如何なる標語を用ふるか。
- 二六八 強きを示す時は如何。
- 二六九 最も強きを示す時は如何。
- 二七〇 弱きを示す時は如何。
- 二七一 最も弱きを示す時は如何。
- 二七二 此等の標語の代りに普通に用ひらるゝ略字は如何。
- 二七三 ピアノよりフォルテに漸次移るべき時は如何に書くか。
- 二七四 クレツゼンドは如何に略さるゝか。
- 二七五 フォルテよりピアノに漸次移るべき時は如何に書くか。
- 二七六 如何に略さるゝか。
- 二七七 クレツゼンドとデイミニユエンドとが連続する時は何と云ふか。
- 二七八 スウエルは如何なる記號にて示すか。
- 二七九 *sf* は何の意味か。
- 二八〇 速度を示すために普通に用ひらるゝ標語は如何。

- 二八一 音と音とが互に相連続することなく切れ／＼に奏さるを何といふか。
- 二八二 如何にして示さるゝか。
- 二八三 曲想に關し最も普通に用ひらるゝ標語は如何。
- 二八四 スラーとは何か。
- 二八五 此等の外尙強弱速度曲想等を標示するために音楽上用ひらるゝ標語があるか。
- 二八六 此等の種々の標語は何處の國語より採りしか。
- 二八七 何故に英語を用ひぬか。

第五章 轉調及和絃に關する問

- 二八八 轉調とは如何なる變化か。
- 二八九 如何にして轉調を知るか。
- 二九〇 主調及附屬調とは如何。
- 二九一 樂曲の中途に嬰變若くは本位記號か顯はれし時すべて轉調と見なし得るか。

二九二 轉調には最も普通の場合幾つあるか。

二九三 その如何なる場合か。

二九四 第五度の調に轉ずる場合には如何なる臨時音が顯はるゝか。

二九五 第四度の調に轉ずる場合には如何なる臨時音が顯はるゝか。

二九六 關係短音階に轉ずる場合には如何なる臨時音が顯はるゝか。

二九七 第五度の調の關係短音階に轉ずる場合には如何なる臨時音が顯はるゝか。

二九八 第四度の調の關係短音階に轉ずる場合には如何なる臨時音が顯はるゝか。

二九九 轉調を確知するに臨時音の外尙注意すべき要件あるか。

三〇〇 臨時記號なくして轉調することあるか。

三〇一 此の如き場合に聽て特種の感あるか。

三〇二 經過音とは何か。

三〇三 和絃とは何か。

三〇四 三和音とは何か。

三〇五 三和音に幾種の別あるか。

三〇六 七の和絃とは何か。

三〇七 七の和絃に於て最も多く使用さるゝものは何か。

ものあれども普通
きつに用ひざれば者

孤状の曲線が高さ
は二つ以上の二つ又
は二つ以上の二つ又
は二つ以上の二つ又
は二つ以上の二つ又
は二つ以上の二つ又
は二つ以上の二つ又
は二つ以上の二つ又

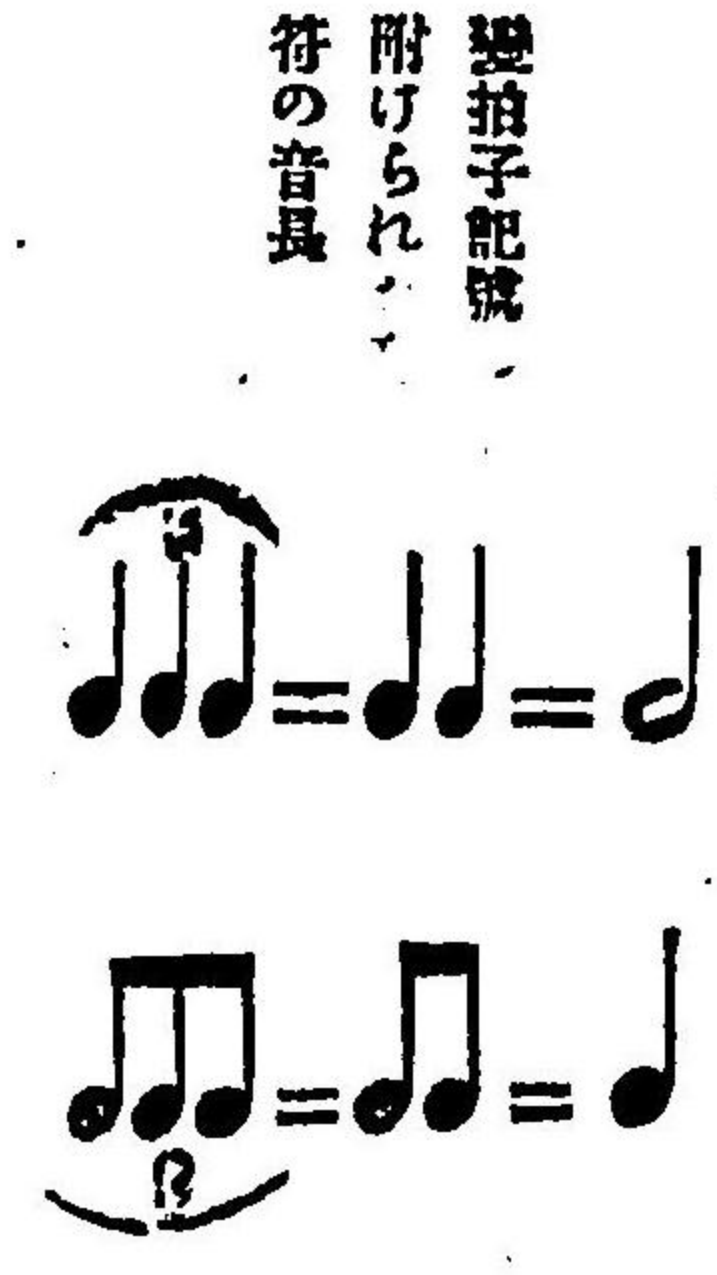
ポースの時間延
はすべき時問は曲
延ばすもの任意に
延ばすもの任意に
延ばすもの任意に
延ばすもの任意に
延ばすもの任意に
延ばすもの任意に
延ばすもの任意に

音の記法に就
ては七世紀の
用ひられし一
にひらきし種
にひらきし種
にひらきし種
にひらきし種
にひらきし種
にひらきし種
にひらきし種

複縦線は二條の垂
直なる直線なれど

其の場合には附せられた三つの音符は附せられぬ
本来の音符二つ丈けの時間内に奏せらるゝやうに
速くするのである。即ち一音符を三等分したやうに
なる斯の如き音符を三連音符と云ふ。

第七圖



一三。タイとは如何なるものにして又如何なる用あるか。
タイとは弧状の曲線にして同じ高さの音符の上に
置かれたるものである。而して此の場合には其の音
符の音長は個々に離るゝことなく、一つの音符の如
く見なされ、すべての時間丈け保たるゝ。

- 一四。ポースは何を示すか。
音符又は黙符の上又は下に置かれて其の固有の時
間より適宜に長く延ばすべきを示す。然れとも若し
複縦線に出づの上には置かれたる時は楽曲の結尾を示
す。
- 一五。音の長さ連りは如何に區劃さるゝか。
小節と呼ぼるゝ一定の區分に依て區劃さるゝ。
- 一六。小節は如何にして示さるゝか。
單縦線によりて示さるゝ。
- 一七。單縦線とは如何なるものか。
單縦線とは垂直なる一條の直線にして、各小節の境
界をなす。
- 一八。複縦線は何を示すか。

三六。此等の種々の小節は何によりて其の種別を示すか。
分數の形をなしたる一種の數字記號によりて之を示す。

三七。分子は何を示すか、又分母は何を示すか。

分子は一小節内の單位の數を示し、分母は一單位に當る音符の種類を示すのである。例令は $\frac{3}{4}$ と記載せられたるものは四分の一音符を單位とせる三拍小節なるを示すが如し。

三八。此等の拍子を表はす記號を何といふか。
拍子記號といふ。

三九。拍子記號として屢々 C 又は C の如き記號を用ふるは如何なる意味か。
前者は $\frac{4}{4}$ 後者は $\frac{2}{2}$ を意味す。

四〇。メトロノームとは何か。

四一。 $\text{♩} = 80$ は何を示すのか。
樂曲の速度を定むるに用ふる拍節機なり。

之は四分音符一個を一分間に八十個奏すべき速度なるを示すものにて恰も拍節機の示度器を80度の處に置きて振動せしむれば其の一振動は四分の一音符一個の速度に相當す。

四二。切分音とは何か。

切分音とは弱聲の單位に屬する音が、強聲の單位まで延長されたる音にして此の場合に其の音は全部強聲となる。

單位と單位との間即ち一拍の中途に音符の顯はれ來るもの亦同じ。

第三章 高さに関する問答

四三。音の高度とは何の意味か。

音の高さ低さをいふのである。

四四。音の高度に就ては如何様に名づけらるるか。

二様に名づけらる。即ち一は音それ自身の一定したる固有の高さに對して、又一は他の音との關係の上から見たる高さに對して名づけらる。

四五。音それ自身の一定したる固有の高さを何といふか。

絶対的の高度といふ。

四六。絶対的の高度の名稱は如何に。

次のやうである。

日本ハ、ニ、ホ、ヘ、ト、イ、ロ、

な故にハを第一と
リすは別に説
何。(二六)

同逸にてはBをH
といふ。

西洋C、D、E、F、G、A、B

四七。音と音との關係の上より見たる高さを何といふか。

關係的の高度といふ。

四八。關係的の高度の名稱は如何に。

數字の名を以て命ずる。即ち。

1、2、3、4、5、6、7、8、

四九。或る一定の順序によりて、排列の整頓せられたる關係

的の高度の連續を何といふか。

音階といふ。

五〇。音階には幾つの音を含むか。

八つ。

五一。音階を唱ふるに何といふか。

ド、レ、ミ、ファ、ソ、ラ、シ、ド、と唱ふ。

大音階の音は元とイ
ふ意味の起る力と
の注に於て即ち一定
の音に異なるとして
大音階の音に異なるとして
大音階の音に異なるとして
大音階の音に異なるとして

音階は斯く八個の
音を連続したる順序
の音を連続したる順序
の音を連続したる順序
の音を連続したる順序

第十圖



六〇。九つより多く記載せんとする時如何にするか。

譜表の直上直下を直に音度とし、其の他は上方又は下方に線又は間を増加して音度を作る。

六一。増加されたる線又は間を何といふか。

短線及短間といふ。或は加線及加間とも云ふ。

六二。短線又は短間によりて作られたる音度は如何に計ふるか。

譜表を基として上方及下方に各々線及間を別々に計ふ。

第十一圖



六三。譜表は直ちに音の確定したる絶対的高度及關係的高度を表はすか。

否直ちには表はし得ぬ。

六四。譜表上に如何にして音の絶対的高度が確定するか。

譜表上或度にハより口までの何れかの文字を置くことによりて確定する。

六五。此等の文字は何を表はすのか。

譜表上文字の置かれたる度が其の文字の表はしおる高度なるべきを表はす。

六六。此の文字は他に如何なる効用あるか。

譜表上文字の置かれざる他の度が他の如何なる高度なるべきかを推定する元標となる。

六七。斯く用ひらるゝ文字を何といふか。

七六。一つの音階中にある音程は皆等一か。

否、二つの種類がある。

七七。何々といふか。

一音程及半音程といふ。

七八。音階中には一音程及半音程各幾つ宛あるか。

一音程五つ及半音程二つある。

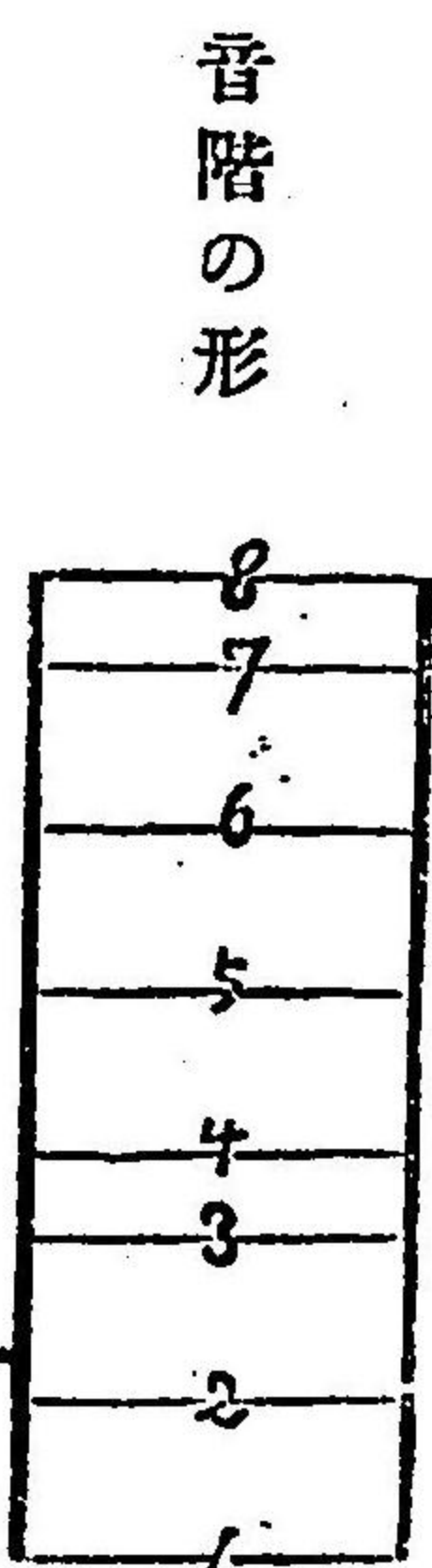
七九。其排列の順序は必要か。

然り、甚必要である。

八〇。其固有の順序は如何。

第三音と第四音との間及第七音と第八音との間は半音程にして他は皆一音程なり。次の如し。

第三十圖



八一。八音とは如何なる意味か。

八音の語には二つの意ありて、一は或音より上又は下へ八つ目の音を意味し、一は第一音より第八音までの八個の音の一連を意味す。

八二。音階の第一音として置かるゝ音を何といふか。

主調音又は單に主音といふ。

八三。音階の各音に附せられたる特別の名稱あるか。

然り、各々其性質又は占むる位置などの關係よりして、次の如き特別の名稱が與へらる。

第一音……………主和絃

第二音……………上主和絃

第三音……………中和絃

第四音……………次屬和絃

第五音……………屬和絃

第六音……………上屬和絃

第七音……………導音

八四。音階の高度は常に同一ならねばならぬか。

否、變することを得。

八五。第一の音階の主音は何か。

ハ音である。

八六。音階の名は何によりて附けらるゝか。

第一音の名を以て直ちに其の音階の名とする。

八七。第一の音階とし又摸範の音階となすは何調か。

ハ調音階。

八八。ハ調音階を作る諸音は何々か。

ハ、ニ、ホ、ヘ、ト、イ、ロ、ハの八音である。

八九。音階中の音と音との間に中間音を作り得るは幾つか。

五つ作らるゝ。

九〇。何處に作らるゝか。

一音程の處ならば何處にても任意に作らるゝ。

九一。名は如何にして附けらるゝか。

作られたる位置の上又は下の音名によりて附けらるゝ。

九二。中間音が第一音と第二音との間に作られたる時第一

音よりいへば何といふか。

嬰第一音といふ。

九三。此場合に嬰とは如何なる意味か。

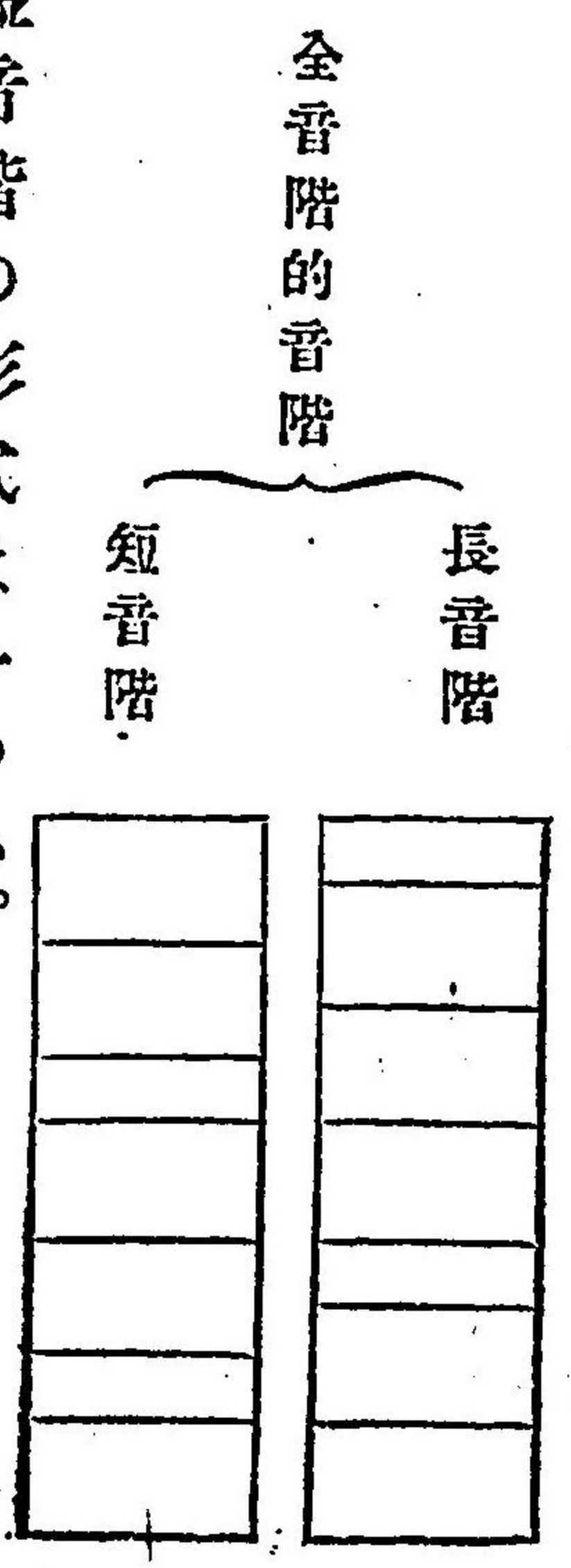
第一音よりも半音程高いといふ意味である。

九四。此中間音は第二音よりいへば何といふか。

- 一〇五。幾つの音程があるか。
十二の音程を含む。
- 一〇六。其の音程は皆等一か。
然り、皆等一である。
- 一〇七。一音程か半音程か。
半音程である。
- 一〇八。八個の音より成る音階を何といふか。
全音階的音階といふ。
- 一〇九。全音階的音階に幾種あるか。
二種即ち長音階と短音階とである。
- 一一〇。如何に異なるか。
共に八個の音より成り、全音程五つ及半音程二つを含有すれども、唯各々其の排列の順序を異にす。

即ち長音階は第三音と第四音との間及第七音と第八音との間に半音程を有すれども、短音階は第二音と第三音との間及第五音と第六音との間に半音程を有す。

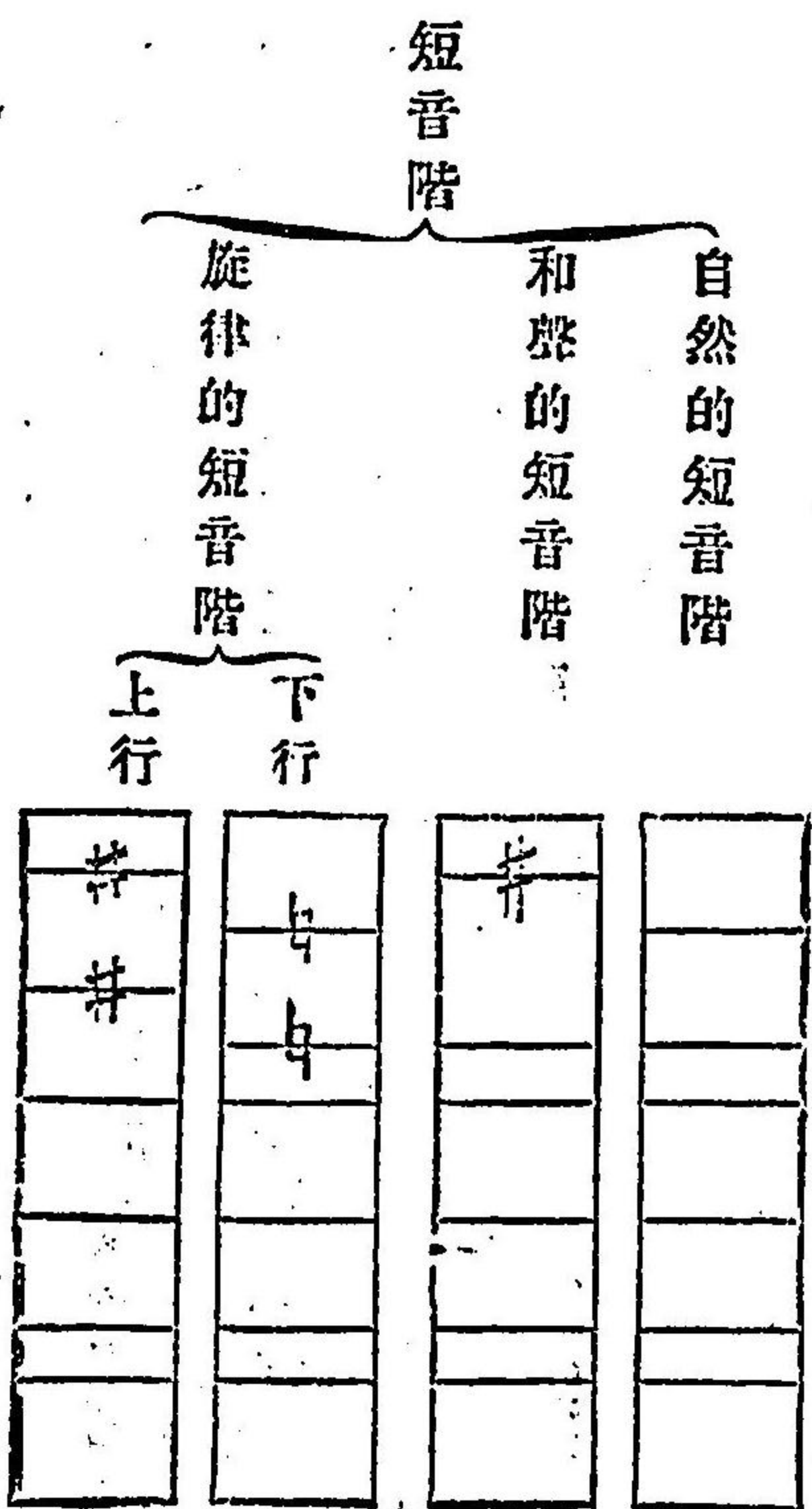
第四十圖



- 一一一。短音階の形式は一つか。
否、三つある。
- 一一二。何々と名づけらるるか。
自然的短音階、
和聲的短音階。

旋律的短音階
 と名づけられ次の圖の如く和聲的短音階は自然
 的短音階の第七音に嬰を附して導音の性質を帶
 せしめし者にして旋律的短音階は更に第六音に
 も嬰を附して旋律上の圓滑を謀りたるものなり
 但し旋律的短音階は下行の場合に其の第六音及
 第七音は本位に復するものとす。

圖五十第



短音階の導音は
 多く其の分には
 要なく其の分には
 的興味を深からし
 む。

互に親密なる關係を
 有するとは如何なる
 二つの音階が主音
 一その音階が主音
 一その音階が主音
 てその音階が主音
 云ふものは相互に
 場合の關係を有す
 云ふ。他の關係音階と

- 一一三。短音階用臨時音とは何か。
 短音階用臨時音とは旋律的短音階の上行の場合
 の第六音及第七音又は和聲的短音階の第七音を
 指すのである。
- 一一四。短音階が長音階と親密なる關係を有するは如何なる
 場合にか。
 それは短音階の第一音が長音階の第六音に相當し
 たる時である。
- 一一五。長音階が短音階と親密なる關係を有するは如何なる
 場合にか。
 それは長音階の第一音が短音階の第三音に相當し
 たる時である。
- 一一六。八調長音階と親密なる關係を有する短音階は何調

この短音階の附せら
 ぬる音の故に同一の
 唯字のみ故に同一の
 音とみなすは如唱の
 發音の時本は如唱の
 方ては附にせらば如
 但しは附にせらば如
 又は音變の附にせら
 嬰の音變の附にせら
 れたる音變の附にせ
 度は依然として如唱
 方は依然として如唱
 用ふるを一般と唱
 例は亦之を半音と
 へ半音の半音と唱
 唱へ高き半音と唱
 程高く唱ふるが如
 し。

か。

イ調短音階である。

一一七。長音階及短音階は皆其の第一音をドとし他は之に準じて唱ふるか。

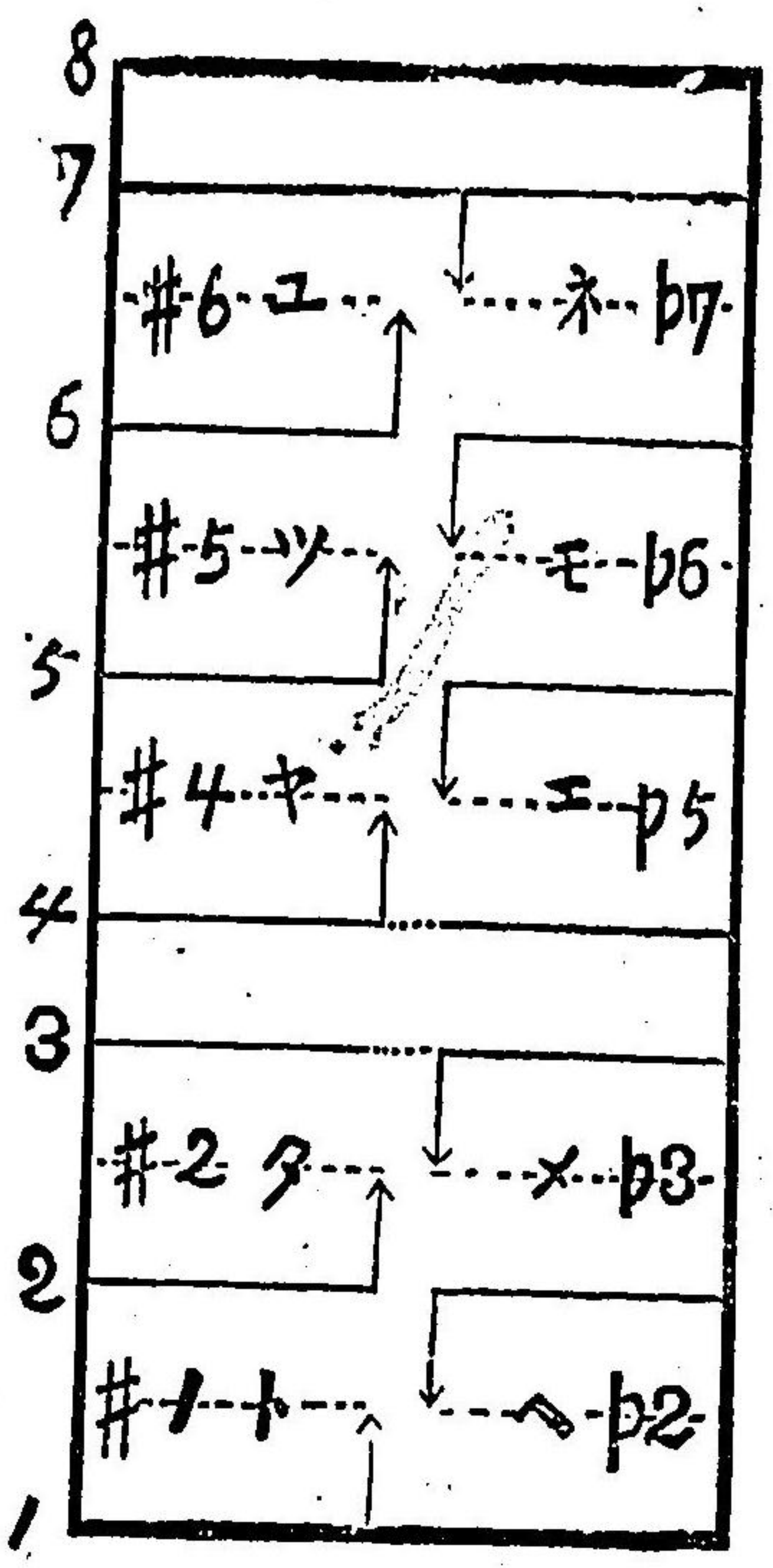
否、練習の便宜上短音階は長音階の唱へ方を假用す、即ち短音階の第一音は長音階の第六音に當るを以て之をラと唱へ他は之に準ず。

一一八。音階中の或音の嬰又は變の附せられたる時如何に之を唱ふるか。

外國の唱へ方は嬰の附せられたるものは其の綴字の末字をーに變じてデイリ、ミ、ファイシリ、シ、の如く唱へ變の附せられたるものは綴字の末字をEに變じてデレ、メ、フェ、セ、レ、セ、の如く唱ふる。我國にて

用ふるを一般と
 例は亦之を半音と
 へ半音の半音と唱
 唱へ高き半音と唱
 程高く唱ふるが如
 し。

圖六十第



は階名をヒ、フ、ミと唱ふる際には其嬰又は變音は次の如く之を唱ふる。

一一九。ハ音より嬰ハ音に至ると、嬰ハ音よりニ音に至るとは同じ半音なるか。

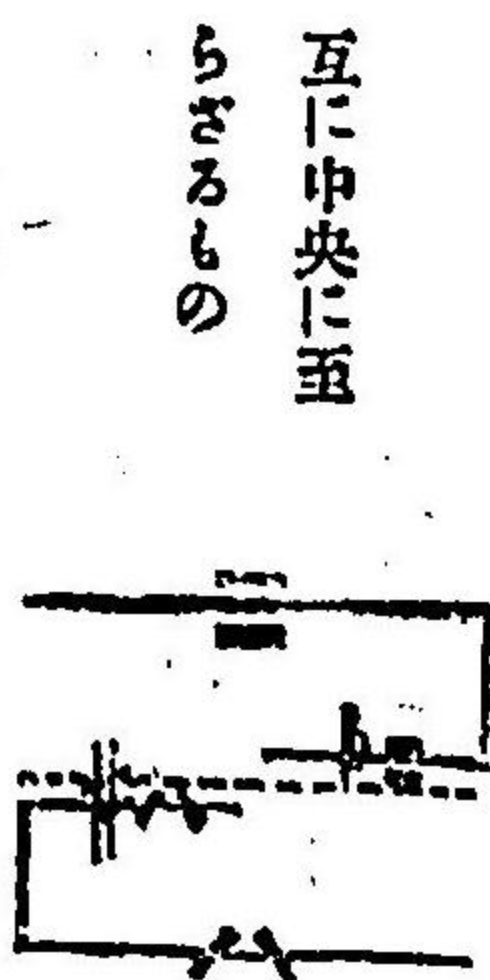
オルガン又はピアノの如き有鍵楽器にては、實際の音程は等一なれども、理論上相異なるものにて、前者を半音階的半音といひ、後者を全音階的半音

といふ。即ち一は同名なる二音間に成り立ち、一は異名なる二音間に成り立つ。

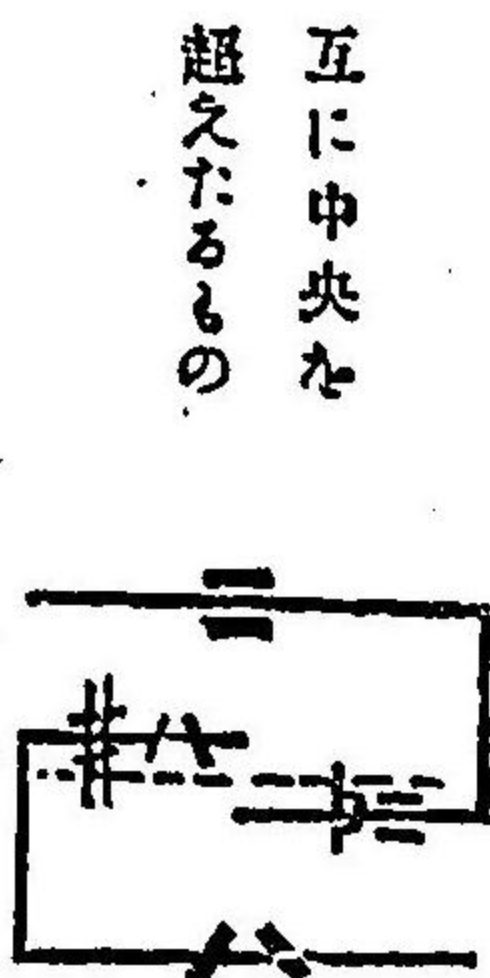
一一〇。全音階的半音と半音階的半音とは如何に異なるか。

二説ありて一は二音間に作らるる嬰變二音は互に其の中央に至らざるものなりといひ、一は互に中央を越えたるものなりといふ。即ち一は全音階的半音は、他に比して大なりといひ、一は小なりと説く。而して此嬰變二音の間に生ずる小差を四分音程といふ。

圖七十第



圖八十第



一一一。風琴又は洋琴の如く一個の音にて嬰變共通せるも

のを何といふか。
平均律といふ。

一一二。高度の異なる音階を作らんとするに、如何にして必要なる音程の一定順序が保たるゝか。

そは模範音階の形と一致せぬ音を除き、更に必要なる音を充用して一定の音程順序を保たしむ。

一一三。諸種の調子は如何なる仕方によりて示さるゝか。
楽曲の初めに嬰又は變を記して之を示す。

一一四。此嬰又は變は如何なる意味を表はすのか。

こは其の音階中に含まるゝ總ての嬰音、又は變音を表はしておるのである。即ち該當音は一楽曲を通して嬰音又は變音なるべきを示しておるのである。

ハ音の主音として
 音階を作れば一つ
 の嬰符は用い
 ることなく音階
 を得るが、
 作り得る音階
 の第一の音階と
 する故に、
 排別の順序と
 して、
 ハ列の始めとす。

一二五。此嬰又は變を何といふか。

調子記號といふ。

一二六。ハ調の調子記號は如何。

何も記載せぬ。

一二七。最初に移る音階の第一音は何か。

ト音である。

一二八。ハ調に於てト音は第何音か。

第五音である。

一二九。ト調を作る諸音は何々か。

ト、イ、ロ、ハ、ニ、ホ、ヘ、ト、の八音である。

一三〇。何故に嬰へ音を要するか。

嬰へ音を用ひざれば模範音階と一致せぬ故に。

一三一。ト調音階の諸音中ハ調音階に含まぬ音は何か。

嬰へ音一個である。

一三二。ハ調音階の諸音中ト調音階に含まぬ音は何か。

へ音である。

一三三。關係短音階は長音階の第何音より始まるか。

第六音より始まる。

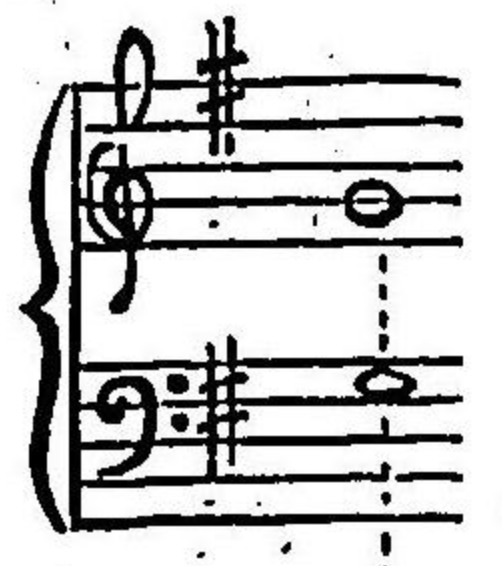
一三四。然らばト調長音階の關係短音階は何か。

ホ調短音階である。

一三五。ト調長音階の調子記號は如何。

一個の嬰記號をへ音の場處に記しておく。

第十九圖



主音の位置

一三六。ホ調短音階の調子記號は如何。

ト調子記號を記すに
 嬰符を記すに
 注意す。

ト調長音階の調子記號と同じく、一個の嬰記號をへ音の場處に記しておく。

第二十圖



主音の位置

一三七。ト調短音階とホ調短音階とは何故に同一の調子記號を有するか。

如何となれば、此二つの音階は共に嬰へなる一つの嬰音を有するが故に調子記號としても、亦同様に一個の嬰記號をへ音の場處に記しておくのである。

一三八。樂曲の調子は如何にして知るか。

1 調子記號。

一つの調子記號は、長短二種の音階に共通するを以て、唯是に調するの何れかを見れば、其の調の如何を見

知る能はず故に此問あり。

稀には第三音第五音にて終るものあり。

- 2 首尾音の如何。
 - 3 短音階用臨時音の有無。
 - 4 旋律の情趣。
- 等を考察して之を知る。

一三九。樂曲は通常其の音階の第何音に始まり又終るか。

其の音階の第一音、第三音又は第五音に始まり第一音に終るを通例とす。

一四〇。第二番目に作る長音階の第一音は何か。

二音である。

一四一。二音はト調の第何音か。

第五音である。

一四二。三調長音階を作る諸音は何々か。

ニ、ホ、ヘ、ト、イ、ロ、ハ、ニ、の八音である。

一四三。何故に第七音に嬰ハ音を要するか。
模範音階と一致せしむるために。

一四四。ニ調長音階の關係短音階は何か。

□調短音階である。

一四五。ニ調長音階及□調短音階の調子記號は如何。

二つの嬰記號をへ及ハの場處に記す。

第廿一圖



短音階主音

長音階主音

一四六。第三番目に作る長音階の第一音は何か。

イ音である。

一四七。イ音はニ調の第何音か。

第五音である。

一四八。イ調長音階を作る諸音は何々か。

イ、ロ、ハ、ニ、ホ、ヘ、ト、イの八音である。

一四九。イ調長音階の關係短音階は何か。

嬰へ調短音階である。

一五〇。イ調長音階及嬰へ調短音階の調子記號は如何。

三つの嬰記號を嬰音なるべき各々の場處に記す。

第廿二圖



短音階の主音

長音階の主音

一五一。イ調長音階の第三音はト調長音階にては第何音か。

嬰第四音に當る。

一五二。ニ調長音階にては第何音か。

第七音に當る。

一五三。第四番目に作る音階の第一音は何か

木音である。

一五四。木音はイ調の第何音か。

第五音である。

一五五。木調長音階を作る諸音は何々か。

木、ヘ、ト、イ、ロ、ハ、ニ、ホ、の八音である。

一五六。木調長音階の關係短音階は何か。

嬰八調短音階である。

一五七。木調長音階及嬰八調短音階の調子記號は如何。

四つの嬰記號を嬰音なるべき各々の場處に記す

第廿三圖



短音階の主音

長音階の主音

一五八。第五番目に作る音階の第一音は何か。

ロ音である。

一五九。ロ音は木調の第何音か。

第五音である。

一六〇。ロ調長音階を作る諸音は何々か。

ロ、ハ、ニ、ホ、ヘ、ト、イ、ロ、の八音である。

一六一。ロ調長音階の關係短音階は何か。

嬰ト調短音階である。

一六二。口調長音階及嬰ト調短音階の調子記號は如何。
 五つの嬰記號を嬰音なるべき各々の場處に記す。

第廿四圖

短音階の主音
長音階の主音

一六三。第六番目に作る音階の第一音は何か。
 嬰へ音である。

一六四。嬰へ音は口調の第何音か。
 第五音である。

一六五。嬰へ調長音階を作る諸音は何々か。
 嬰ト、イ、ロ、ハ、ニ、ホ、への八音である。

一六六。嬰へ調長音階の關係短音階は何か。
 嬰ニ調短音階である。

一六七。嬰へ調長音階及ニ調短音階の調子記號は如何。
 六つの嬰記號を嬰音なるべき各々の場處に記す。

第廿五圖

短音階の主音
長音階の主音

一六八。嬰へ調長音階の第五音を第一音として第七番目に
 作る長音階は何調か。

一六九。其の關係短音階は何調か。
 嬰ハ調長音階である。

嬰イ調短音階である。

一七〇。嬰ハ調及嬰イ調短音階の調子記號は如何。

七つの嬰記號を嬰音なるべき各々の場處に記す。

第廿六圖



短音階の主音

長音階の主音

一七一。第五度によりて順次に組立てられたる音階の調子

記號には何が用ひらるゝか。

すべて嬰の記號のみが用ひらる。

一七二。嬰種音階の組立てに就て記憶すべき事は何々か。

- 1 嬰種音階は第五度によりて順次に組立てらるる故に主音は常に五度の關係を以て順に進む。
 - 2 新らしく顯はるゝ嬰音は其の音階の第七音にして前音階の嬰第四音に當る。
 - 3 調子記號として顯はすべき嬰記號も亦順次に五度の關係を有す。
- 等は記憶すべき事項である。

一七三。ハ調長音階の第四音は何か。

ハ音である。

一七四。ハ音よりハ音までは何度か。

四度である。

一七五。ハ音を第一音として音階を作れば如何なる音が排

嬰種音階にありては上部の四音は下部の四音と異なるを以て此の四音は二つの音階の共通なり。

列さるゝか。

ヘ、ト、イ、ロ、ハ、ニ、ホ、ヘ、の七音が排列さる。

一七六。ロ音を用ひずして何故に變ロ音を用ふるか。

變ロ音を用ひざれば模範音階と一致せぬ故に。

一七七。若し變ロ音の代りにロ音を用ふれば此音階の第三

音と第四音との間は何になるか。

一音程となる。

一七八。又第四音と第五音との間は何になるか。

半音程となる。

一七九。へ調長音階の關係短音階は何か。

ニ調短音階である。

一八〇。へ調長音階及ニ調短音階の調子記號は如何。

一個の變記號を變音なるべき場處に記す。

第廿七圖



短音階の主音

長音階の主音

一八一。へ調長音階の第四音を第一音として作る長音階は

何調か。

變ロ調長音階である。

一八二。變ロ調長音階を組立つる諸音は何々か。

ロ、ハ、ニ、ホ、ヘ、ト、イ、ロ、の八音である。

一八三。變ロ調長音階の諸音中へ調に含まぬ音は何か。

變ホ音である。

一八四。變ロ調長音階の關係短音階は何か。

ト調短音階である。

一八五。變口調長音階とト調短音階との調子記號は如何。

二つの變記號を變音なるべき各々の場處に記す。

第廿八圖

變口調



ト調

短音階の主音

長音階の主音

一八六。變口調長音階の第四音を第一音として第三番目に

作る長音階は何調か。

變木調長音階である。

一八七。變木調長音階を組立つる諸音は何々か。

木、ヘ、ト、イ、ロ、ハ、ニ、ホ、の八音である。

一八八。變木調長音階の關係短音階は何か。

ハ調短音階である。

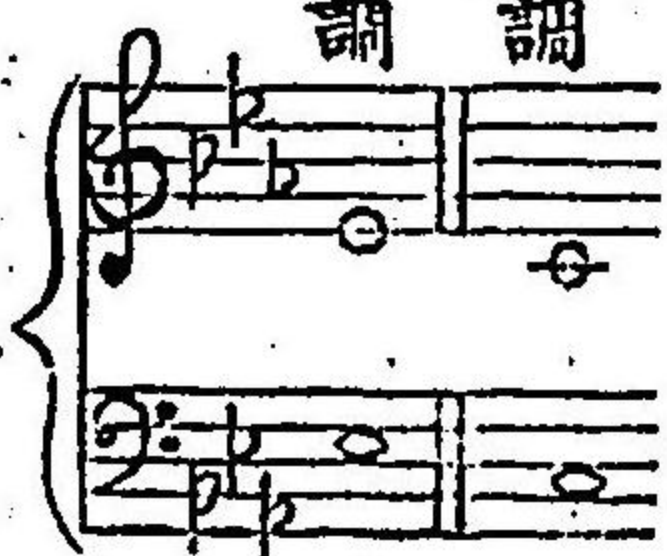
一八九。變木調長音階及ハ調短音階の調子記號は如何。

三つの變記號を變音なるべき各々の場處に記す。

第廿九圖

ハ調

變木調



短音階の主音

長音階の主音

一九〇。變木調長音階の第四音を第一音として第四番目に作る長音階は何か。

變イ調長音階である。

一九一。何々の諸音にて作らるゝか。

イ、ロ、ハ、ニ、ホ、ヘ、ト、イ、の八音にて組立てらる。

一九二。其の關係音階は何か。

ヘ調短音階である。

一九三。其の調子記號は如何。

四つの變記號を變音なるべき各々の場處に記す。

第三十圖

短音階の主音
長音階の主音

一九四。第五番目に組立つる長音階は何か。

變ニ調長音階である。

一九五。何々の諸音にて組立てらるゝか。

ニ、ホ、ヘ、ト、イ、ロ、ハ、ニ、の八音にて組立てらる。

一九六。其の關係短音階は何か。

變口調短音階である。

一九七。其の調子記號は如何。

五つの變記號を變音なるべき各々の場處に記す。

第三十圖 (甲)

長音階の主音
同 (乙)
短音階の主音

一九八。第六番目に組立つる長音階は何か。

變ト調長音階である。

一九九。何々の諸音にて作らるゝか。

二〇〇。其の關係短音階は何か。

ト、イ、ロ、ハ、ニ、ホ、ヘ、ト、の八音にて作らる。
變ホ調短音階である。

二〇一。其の調子記號は如何。

六つの變記號を變音なるべき各々の場處に記す。

第卅二圖



短音階の主音
長音階の主音

二〇二。第七番目に組立つる長音階は何か。

變ハ調長音階である。

二〇三。何々の諸音にて作らるるか。

二〇四。其の關係短音階は何か。
變ハ、ニ、ホ、ヘ、ト、イ、ロ、ハ、の八音にて作らる。

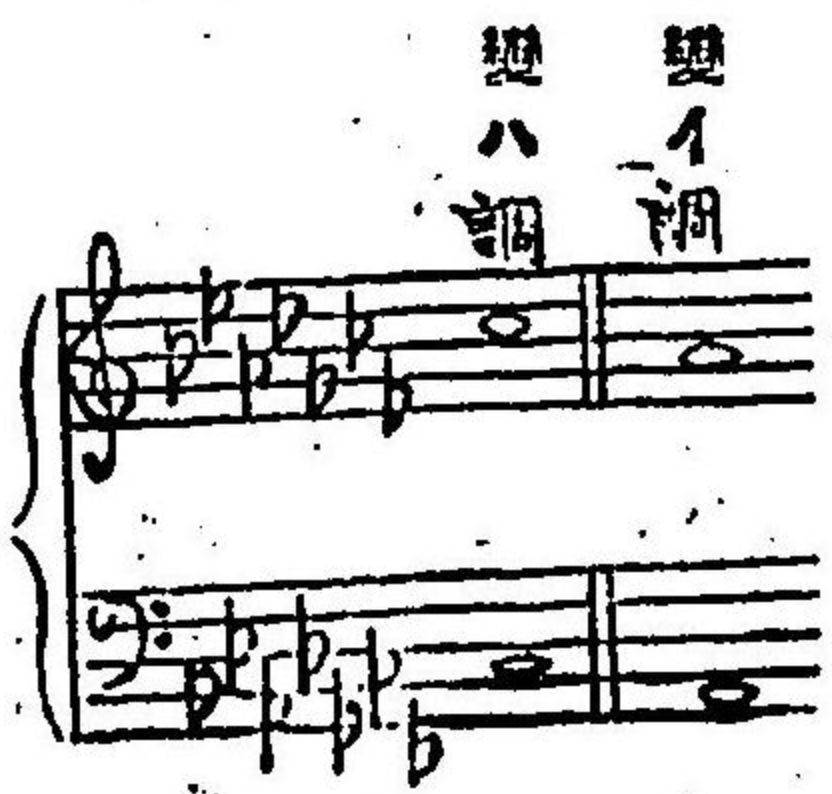
變イ調短音階である。

二〇五。其の調子記號は如何。

七つの變記號を變音なるべき各々の場處に記す。

變種音階にありては下部の四音は次の音階の音階の上部の四音は次の音階の音階の四音は二つの音階の共通なり。

第卅三圖



短音階の主音
長音階の主音

二〇六。第四度によりて組立てられたる音階の調子記號に何が用ひらるるか。
すべて變の記號のみが用ひらる。

二〇七。變種音階の組立てに就て記憶すべき事項は何々か。
1 變種音階は第四度によりて順次に組立てらる故に主音は常に四度の關係を以て順に進む。
2 新らしく顯はるゝ變音は其の音階の第四音に。

して前音階の變第七音に當る。
3 調子記號として顯はすべき變記號も亦順次に
四度の關係を有す。
等は記憶すべき事項である。

二〇八。長音階及短音階は嬰種變種を合せて各幾種となるか。

長音階短音階各々十五種となる。

二〇九。變ト音を他の音名にて云へば何と云ふべきか。
嬰へ音と云ふべきである。

二一〇。斯く高度の變化なくして名稱を異にするを何と云ふか。

四分音階的變化と云ふ。

二一一。四分音階的變化により長音階の數を減じ得るか。

然り、十二種に減するを得。

二一二。變ト調長音階の第四音は何か。

變ハ音である。

二一三。四分音階的變化によれば變ハ音は何となるか。

口音となる。

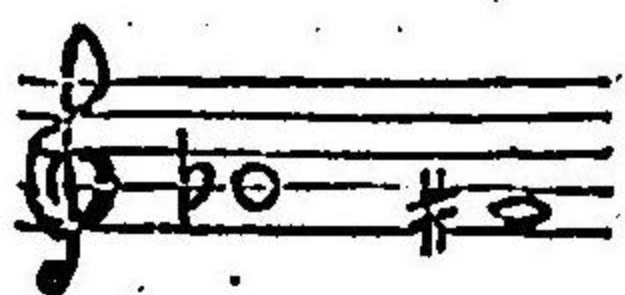
二一四。變ト調に於て何故に第四音に口音を用ひぬか。

如何となれば口音は此調に屬すべき音でなき故に。

二一五。變ト音とへ音とは如何にして其の異なるを知るか。

それは書き表はす手段の異なるによりて知る。

第卅四圖



.....嬰へ音

.....變ト音

二二六。變ト調長音階の第三音に變を附すれば如何。
重變口音となる。

二二七。重變は如何に記載するか。

bb の如く變記號を二つ並記す。

二二八。四分音階的變化によれば重變口音は何となるか。
イ音となる。

二一九。重變口音の代りに何故にイと云はぬか。

如何となればイ音はト音より第二音に當り第三音に當らぬ故である。

二三〇。變ト調長音階に於てイ音は如何なる關係を有するか。
嬰第二音に當る。

二三一。重變口音を變口音となすには如何に記載するか。

bb の如く一つの本位記號と變記號とを並記す。

二二二。重嬰音とは如何なるものか。

嬰音に更に嬰の附せられたるものである。

二二三。如何に記載するか。

×の如き記號を附して之を示す。

二二四。重嬰が取消さるゝ時は如何に記載するか。

一嬰を取消すときは 嬰 の如く記し二嬰を取消すときは 嬰嬰 の如く記すものとす。

二二五。全音階に於て各音より各音に至る音程を悉く作らば幾種の音程となるか。

十四種となる。

二二六。何々と云ふか又其の各が含む處の全音及半音は如何。

次の如くである。

- 一度音程 同一音間
- 二度音程
 - 長二度音程 一全音
 - 短二度音程 一半音
- 三度音程
 - 長三度音程 二全音
 - 短三度音程 一全音及一半音
- 四度音程
 - 完全四度音程 二全音及一半音
 - 超過四度音程 三全音
- 五度音程
 - 完全五度音程 三全音及一半音
 - 不及五度音程 二全音及二半音
- 六度音程
 - 長六度音程 四全音及一半音
 - 短六度音程 三全音及二半音
- 七度音程
 - 長七度音程 五全音及一半音
 - 短七度音程 四全音及二半音
- 八度音程 五全音及二半音

二二七。八度を超へたる音程を何といふか。
 複音程といふ。

二二八。複音程は如何にして計ふるか。
 複音程は上下何れかの音を一オクターブ轉置し
 普通の音程の如く見做して之を計ふ。

二二九。旋法とは何か。
 旋法とは樂曲の依て以て作らるべき一定の法式
 である。

二三〇。旋律とは何か。
 旋律とは樂音の連續して或る感情を與ふる者を
 いふ。

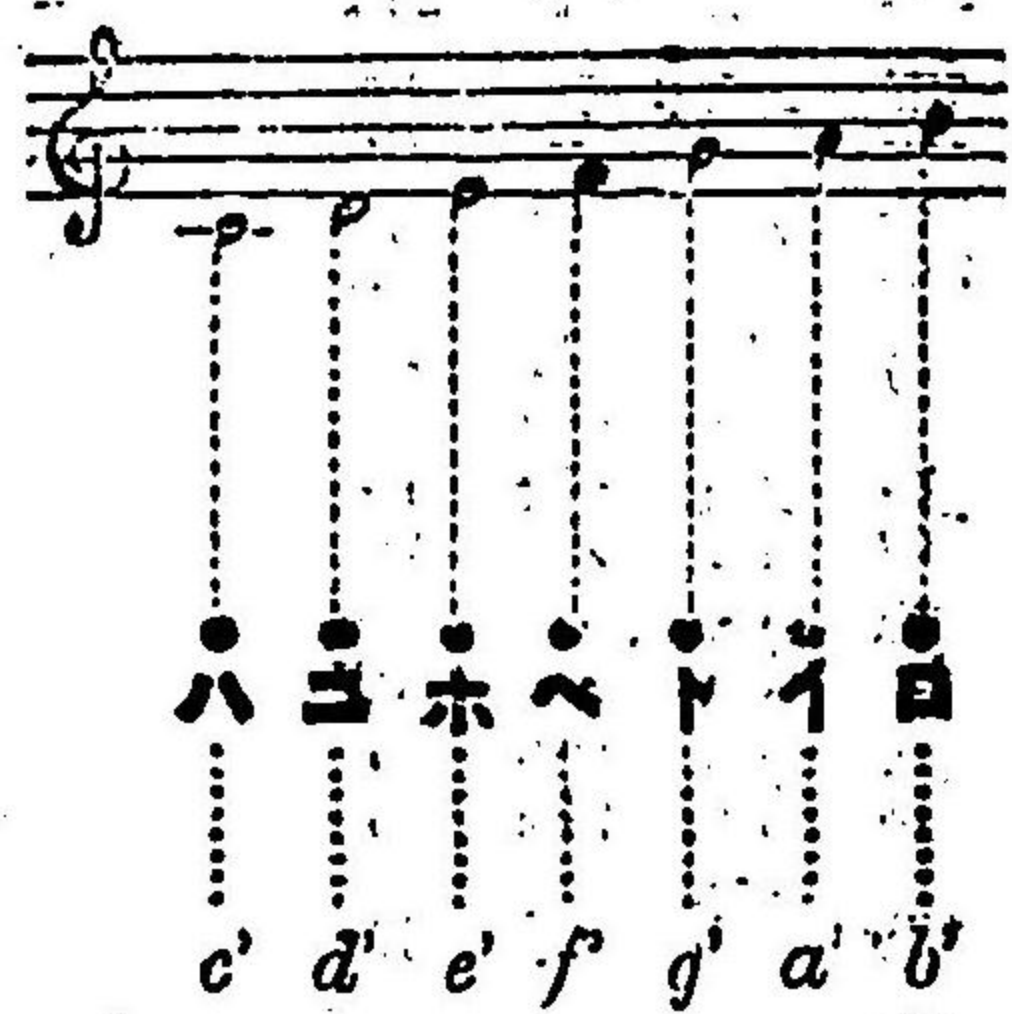
二三一。音階の第八音より高き部分を歌ふ時其の第八音は
 次に歌ふべき音階に對して如何なる關係となるか。

直ちに次の高き音階の第一音となる。
 二二三。音階の第一音より低き部分を歌ふ時其の第一音は次に歌ふべき音階に對して如何なる關係となるか。
 直ちに次の低き音階の第八音となる。
 二二三。如何なる方法によりて異なる高低二つの音階又はオクターブを識別するか。

音名の文字に一定の符號を附して之を識別す。
 二三四。ト字記號を置かれたる譜表の下第一線より起る七音の音名は如何に書くか。
 ハ ニ ホ ヘ ト イ ロ の如く文字の上
 上に一點を附す。
 外國文字にては小字の右の肩に一錐點を附す
 ものこす。

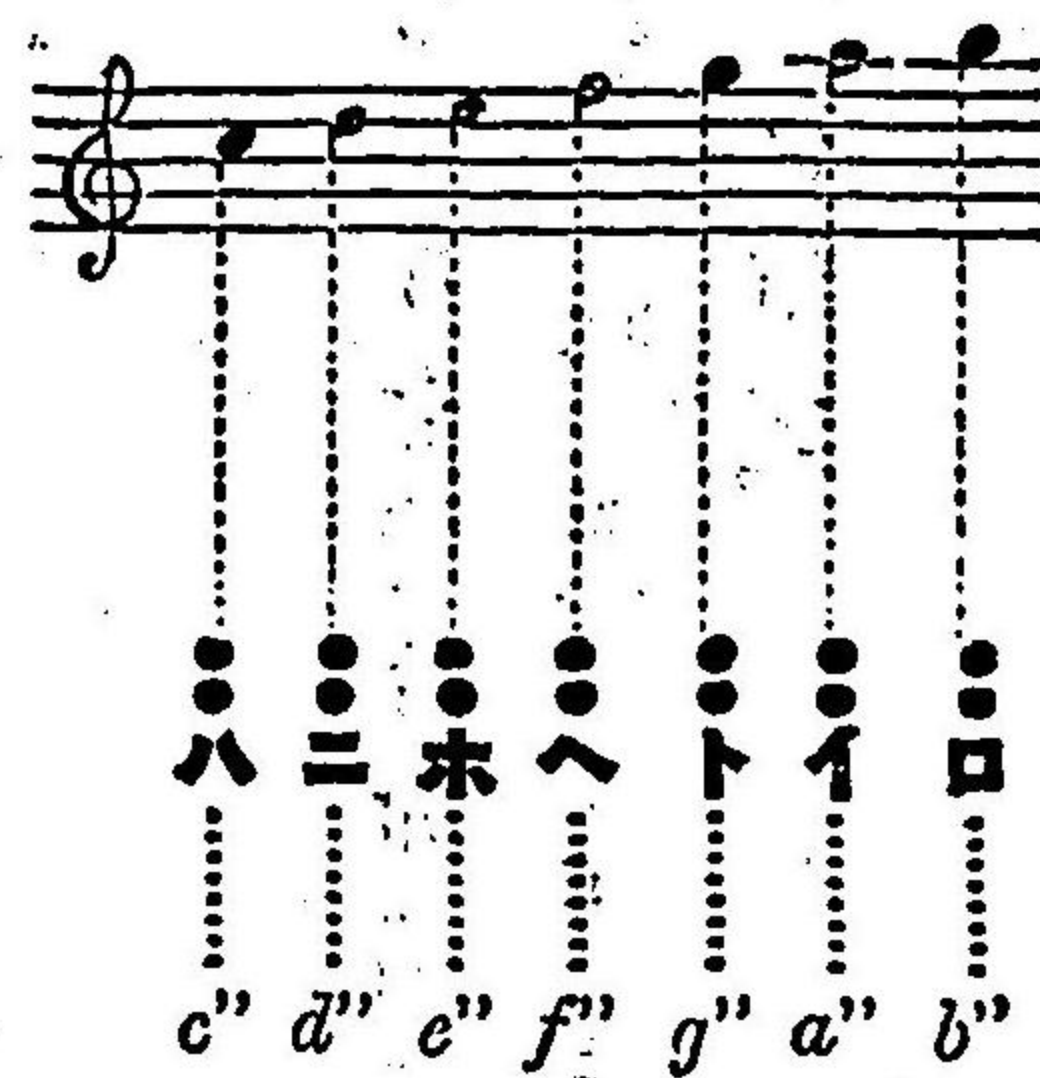
此の七音を無點に
 記し特に中央七
 音と稱するもの
 れども非なり。

第卅五圖



二三五。此上に位する七音は如何に書くか。
 ハ ニ ホ ヘ ト イ ロ の如く文字の上
 に二點を附す。

第卅六圖



二三六。それ以上は如何に書くか。

之に準して上方に點を累加して書く。

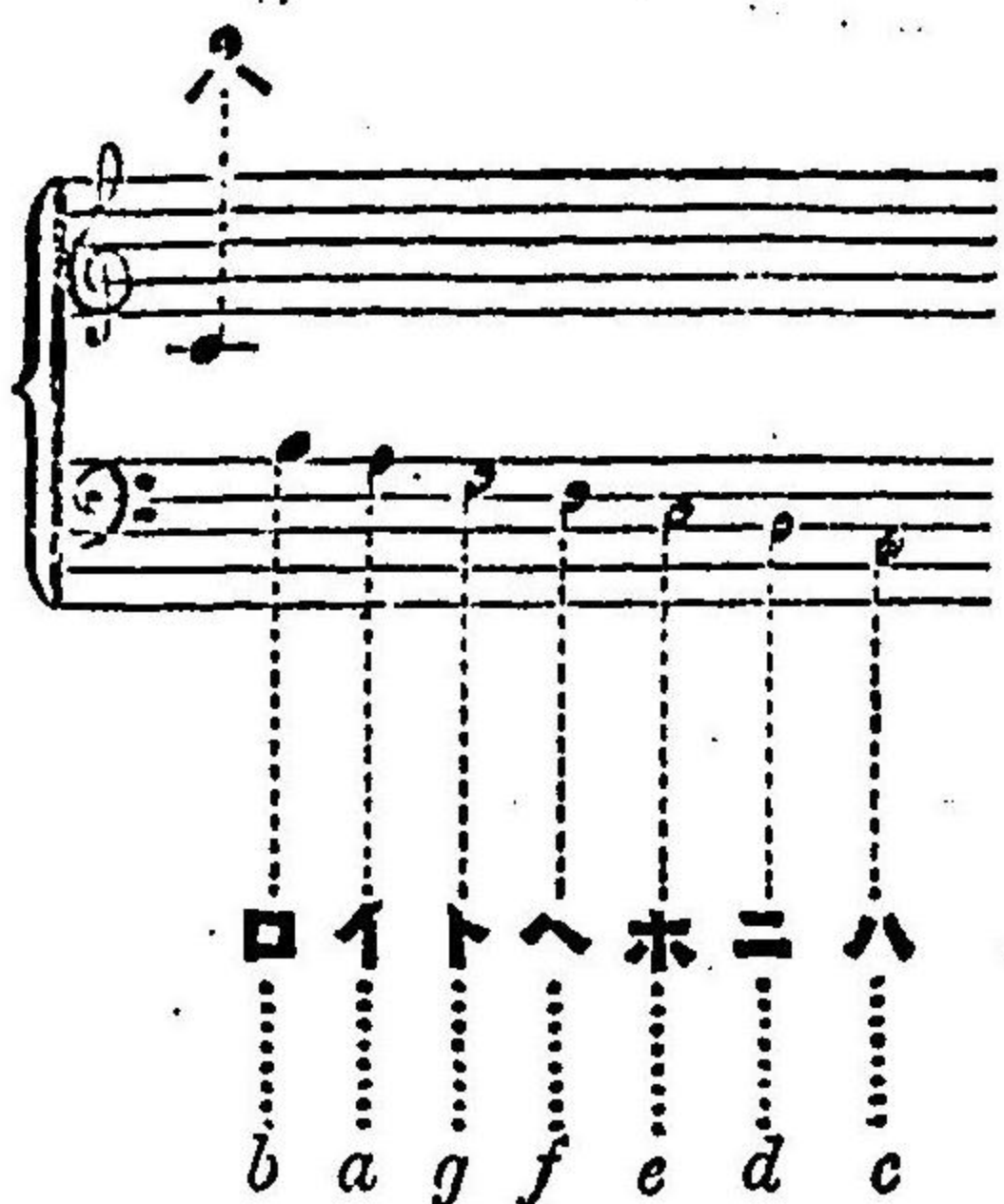
二三七。譜表上無點の七音は何處より何處までか。

譜表上無點の七音はへ字記號を有する譜表の上

一の間より第二の間に至るまで下降して列ぶ七

音である。

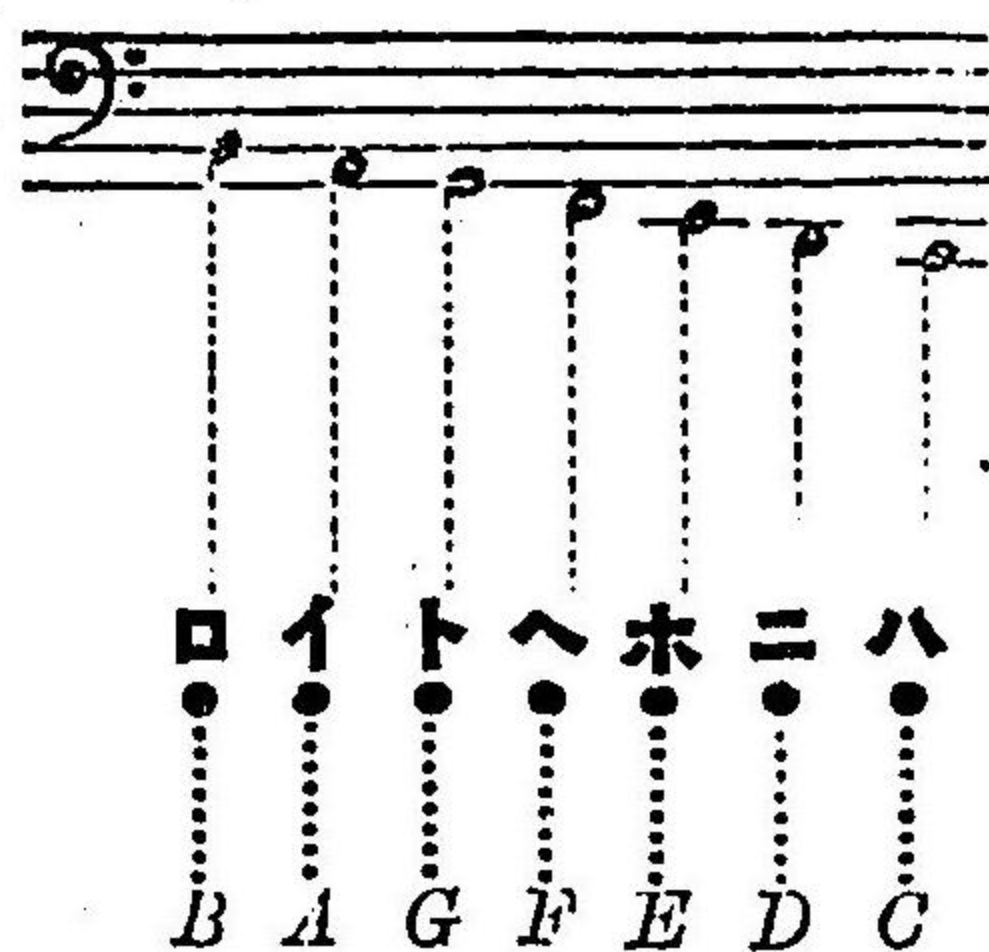
第卅七圖



二三八。無點ハ音の下方にある七音は如何に書くか。

文字の下に一點を附けて書く。

第卅八圖



外國文字にては、大
字の下方に此の點を
附す。故に此の點を
下の故に本邦の記法
と一致せず。

外國文字は大字にて書くものとす。

二三九。次の下方に位する七音は如何に書くか。
文字の下に二點を附けて書く。

二四〇。それ以下の七音は如何に書くか。
之に準じ文字の下方に點を累加して書く。

二四一。8va
は何を示すか。

これは實際に譜表上に記されたるより一オクター
ブ上又は下にて奏すべきを示す。即ち譜表の上に
記されたるときは八音上にて奏し下に記された
るときは八音下にて奏すべきものとす。

二四二。loco
とは何の意味か。

記載されたる通りにとの意味にて8vaの終れる部
分に入念のため記すものである。

二四三。耳にて聽き得べき音は幾オクターブ位か。

大凡九オクターブ位である。

二四四。如何なる樂器に此等の多數の音があるか。
大なるオルガンにある。

二四五。普通のピアノに用ひらるゝ音域は如何。
七オクターブである。

二四六。人聲の音域とは何の意味か。

人間の出し得べき音の區域を云ふのである。

二四七。人聲は幾種に大別さるゝか。

二種即ち男聲と女聲とに大別さる。

二四八。此等の人聲の音域はどの位宛か。

大凡二オクターブ宛である。

二四九。男聲と女聲との高さはどれ程違ふか。

全く一オクターブ違ふ。

二五〇。小兒の聲も亦男女に依て異なるか。

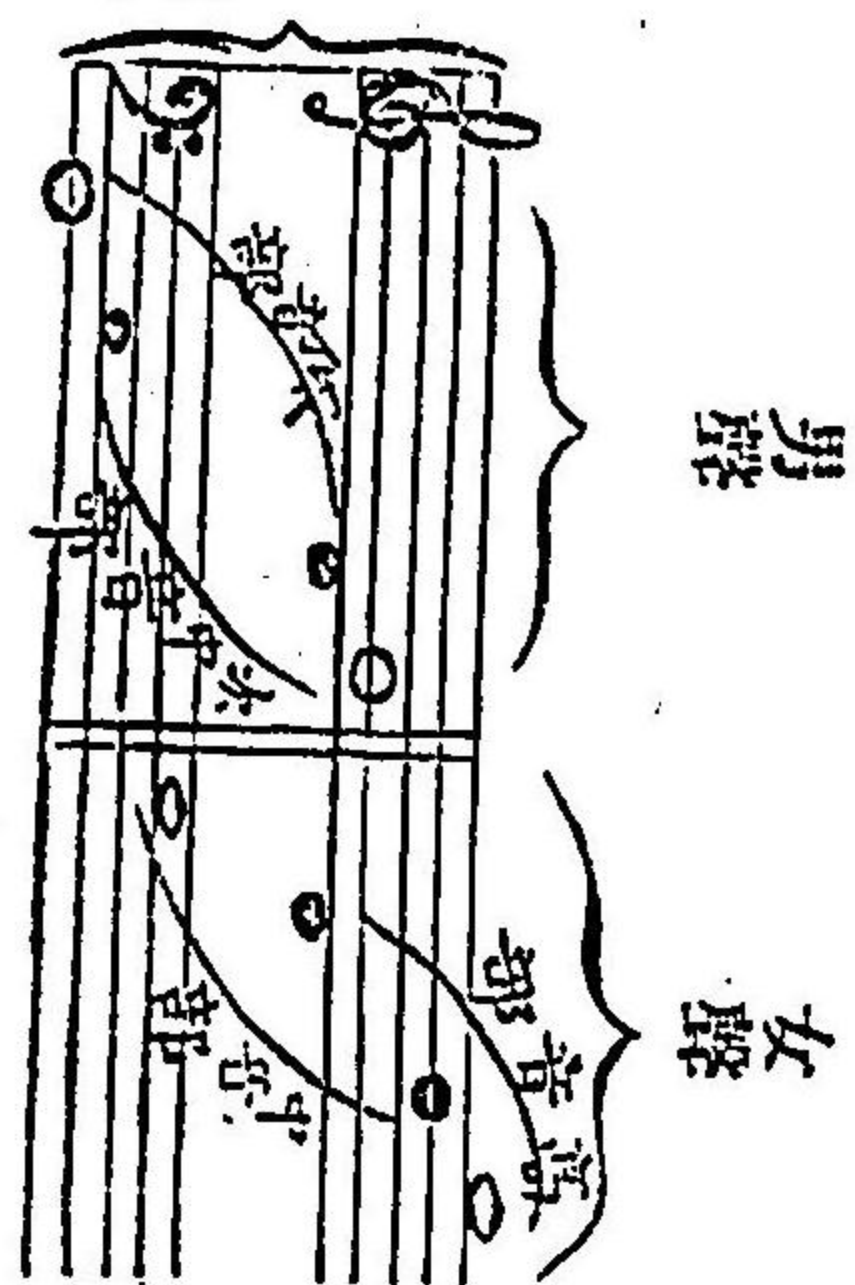
否、小兒の聲は皆同じである。

二五一。四聲部とは何か。

四聲部とは女聲の高音部、中音部及男聲の次中音部、低音部の四をいふのである。

二五二。此等の四聲部の各音域は普通如何に定めらるるか。各々十二音を含む。次の如し。

第卅九圖



二五三。譜表上へ字記號の置かれたる場處は何音か。

無點へ音である。

二五四。へ字記號の置かれたる譜表は何音部を記すに用ふるか。

低音部を記すに用ふ。

二五五。然らばへ字記號は又名何といふべきか。

低音部記號といふべきである。

二五六。譜表上ト字記號の置かれたる場處は何音か。

上一點ト音である。

二五七。ト字記號の置かれたる譜表は何音部を記載するか。

高音部を記載す。

二五八。ト字記號を又名何といふか。

高音部記號といふ。

二五九。中音部及次中音部を記載すべき譜表はなきか。

別に各々記載すべき譜表あれども、通常は便宜のため中音部は高音部譜表に次中音部は低音部譜表に併せて之を記す。

二六〇。合唱とは如何なる意味か。

合唱とは異なる各聲部を合せて唱歌するをいふものにして、聲部の多少により四部合唱、三部合唱、二部合唱等の如く云ふ。

第四章 反覆記號及樂曲の強弱、速度、曲

想等に關する記號並に標語

二六一。樂曲の一部分を二回歌はんとするとき、如何にして之を示すか。

反覆記號にて之を示す。

二六二。普通に用ひらるゝ反覆記號は幾種あるか。

三種にて次の如く記すのである。

の如き記號

| | | |
|--|------------|------|
|  | 或其の略字…………… | D.C. |
| <i>Da Capo</i> | 或其の略字…………… | D.S. |
| <i>Da Segno</i> | 或其の略字…………… | |


二六三。點は何を示すか。

反覆すべき部分の區域を示す。

二六四。D.C. は如何なる意味か。

樂曲の始めへ反覆すべきを意味す。

二六五。D.S. は如何なる意味か。

 の記號の置かれたる場處へ反覆すべきを意

味す。

二六六。Fine(フ子)は如何なる意味か。

終りと云ふ意味にて反覆して後、終るべき部分に記載しおくべき文字である。

二六七。中庸の強度にて發聲すべきを示すには如何なる標語を用ふるか。

Mezzo. (メzzo)の語を記す。

二六八。強さを示す時は如何。

Forte. (フォルテ)の語を記す。

二六九。最も強さを示す時は如何。

Fortissimo. (フォルティシモ)の語を記す。

二七〇。弱さを示す時は如何。

Piano. (ピアノ)の語を記す。

二七一。最も弱さを示す時は如何。

Pianissimo. (ピアニッシモ)の語を記す。

二七二。此等の標語の代りに普通に用ひらるゝ畧字は如何。一般に次の如く略さるゝ。

| 原語 | 略字 |
|------------------|----|
| Mezzo. | m. |
| Forte. | f. |
| Fortissimo. | ff |
| Piano. | p |
| Pianissimo. | pp |

二七三。ピアノよりフォルテに漸次移るべき時は如何に書くか。

Crescendo. (クレッシェンド)と記す。

二七四。クレッシェンドは如何に略さるゝか。

首の四文字のみを記し或は又<の如く右方に開ける二線を漸次強聲となるべき部分の上に記す。
二七五。フォルテよりピアノに漸次移るべき時は如何に書くか。

Diminuendo. (ディミニユエンド)と記す。

二七六。如何に略さるか。

首の三文字のみを記し或は>の如く左方に開ける二線を漸次弱聲となるべき部分の上に記す。

二七七。クレッシェンドとディミニユエンドとが連続する時は何と云ふか。

スウエル (*Swell*)と云ふ。

二七八。スウエルは如何なる記號にて示すか。

<>の如き記號にて之を示す。

二七九 *sf.*は何の意味か。

スフォーザンド (*Sforzando*)と云ふ文字の略字にして記

されたる部分の一音符のみ特に強く奏すべきを示すのである。

二八〇。速度を示すために普通に用ひらるゝ標語は如何。

次の如き語が最も普通に用ひらる。

- Lento*. 極めて緩徐
- Andante*. 最も緩徐
- Adagio*. 同上
- Andante*. 緩徐
- Andantino*. 稍々緩徐
- Moderato*. 中庸

*sf.*の代りに其の音符の上に特にハの如き記號を置くことあり。

- Allegretto. 稍々急速
- Allegro. 急速
- Presto. 最も急速に
- Rit. (Ritardando.) } 次第に緩徐
- Rit. (Ritardando.) } 次第に速く
- Accel. (Accelerando.) } 次第に速く
- Andante. 本来の速さに
- Molto. 甚だ
- Assai. 十分に
- Ma non troppo. 過度でなく
- Poco a poco. 次第に

二八一。音と音が互に相連續することなく切れ々に奏するを何と云ふか。

スタッカト (Staccato) と云ふ。

二八二。如何にして示さるか。
 ↓の如き錐點を音符の上に記して之を示し其の稍々輕くなすべき時は・の如く圓點を記して之を示す。

二八三。曲想に關し最も普通に用ひらるゝ標語は如何。次の如き語が最も普通に用ひらる。

- Agitato. 感を以て、勢を付けて
- Ad lib. (Ad libitum) 奏者の意に任せて
- Cantabile. 謠ふか如くに
- Con animo. 勇壯に
- Con moto. 感情を以て
- Con spirito. 熱心に

| | |
|-------------------------|---------|
| <i>Dolce</i> | 優美に |
| <i>Doloroso</i> | 悲みを以て |
| <i>Legato</i> | 圓滑に |
| <i>Mesoso</i> | 壯嚴に |
| <i>Stringendo</i> | 漸次に切迫して |
| <i>Vivace</i> | 快活に |

二八四。スラーとは何か。

スラーとは異なる高度の二つ、或は二つ以上の音符の上又は下に置かれたる孤状の曲線にして其の部分を最も圓滑に奏すべきを示す。

二八五。此等の外尙、強弱、速度、曲想等を標示するために用ひらるゝ標語があるか。

然り、尙多數あれどもこゝに書きし者は其の最も

普通に用ひらるゝものである。

二八六。此等の種々の標語は何處の國語より採りしか。

伊太利語より採つたのである。

二八七。何故に英語を用ひぬか。

一般に伊太利語を用ふることに約束せられし故である。

第五章 轉調及和絃に関する問答

二八八。轉調とは如何なる變化か。

轉調とは樂曲の中途に於て他の音階に屬すべき音の顯はれ其の一部分の調子の轉ずる變化を云ふ。

二八九。如何にして轉調を知るか。

普通に臨時音の顯はるゝを以て之を知る。
二九〇。主調及附屬調とは如何。

樂曲本來の調子を主調と云ひ、轉じたる調子を其の附屬調と云ふのである。

二九一。樂曲の中途に嬰變若くは本位記號の顯はれし時、すべて轉調と見なし得るか。

否、轉調の場合の外、短音階用臨時音なることあり又經過音と稱する者に屬することあり。

二九二。轉調には最も普通の場合幾つあるか。

五つの場合がある。

二九三。それは如何なる場合か。

次の如くである。

一 主調より第五度の調に轉ずる場合。

二 主調より第四度の調に轉ずる場合。

三 主調より其の關係短調に轉ずる場合。

四 主調より其の五度の關係短調に轉ずる場合。

五 主調より其の四度の關係短調に轉ずる場合。

二九四。第五度の調に轉ずる場合には如何なる臨時音が顯はるゝか。

其の場合には常に主調の第四音が嬰又は本位記號によりて半音高くなりて顯はる。

二九五。第四度の調に轉ずる場合には如何なる臨時音が顯はるゝか。

其の場合には常に主調の第七音が變又は本位記號によりて半音低くなりて顯はる。

二九六。關係短音階に轉ずる場合には如何なる臨時音が顯

はるゝか。
 其の場合には常に主調の第五音が嬰又は本位記
 號によりて半音高くなり、附屬調の短音階用臨時
 音となる。

二九七。第五度の調の關係短音階に轉ずる場合には如何な
 る臨時音が顯はるゝか。

其の場合には常に主調の第二音が嬰又は本位記
 號によりて半音高くなりて顯はれ、附屬調の導音
 となる。

二九八。第四度の調の關係短音階に轉ずる場合には如何な
 る臨時音が顯はるゝか。

其の場合には常に主調の第一音が嬰又は本位記
 號によりて半音高くなりて顯はれ、附屬調の導音

となる。

二九九。轉調を確知するに臨時音の外尙注意すべき要件あ
 るか。

然り、音の連續の關係に就きて深き注意を要す。

三〇〇。臨時記號なくして轉調することあるか。

然り、關係調に轉ずる場合には往々一つの記號も
 なくして唯音の連續の關係によりて轉調するこ
 とあり。

三〇一。此の如き場合にも聽て特種の感あるか。

然り、主調とは全く異なる連續の關係を顯はす
 を以て聽て容易に之を知ることを得。

三〇二。經過音とは何か。

經過音とは旋律の進行を圓滑ならしむるために

或音より或音に移る間に挟まれたるものにして
和絃には關係なきものなり。

三〇三。和絃とは何か。

和絃とは異なりたる高度の各音が同時に結合して響けるものなれども、單に如何なる音の結合にても和絃と稱せらるゝには非ず、此定義に就ては理論家の説亦多けれども普通に認めらるゝに一二の説は次の如し。

- 1 和絃とは或法則に従て同時に響く三個若くは四個、五個の音の結合なり。
- 2 和絃とは或一音の上に其の第三音が逐次に集合して整へる音の結合なり。

三〇四。三和音とは何か。

三和音とは根音(第一音の意)と第三音と及第五音とにて成る和絃である。

三〇五。三和音に幾種の別あるか。

三和音は其の各音間に生ずる音程の種類により左の四種に分類す。

- 長三和音……………長三度及完全五度より成る。
- 短三和音……………短三度及完全五度より成る。
- 減三和音……………短三度及不及五度より成る。
- 増三和音……………長三度及増五度より成る。

第四十圖



長三和音

第四十一圖



増三和音

減三和音

短三和音

三〇六。七の和絃とは何か。

七の和絃とは三和音に更に根音の七度を重加したるものである。

三〇七。七の和絃に於て最も多く使用さるゝものは何か。
五度の上に作られたる七の和絃である。

明治四十一年一月二十日印刷
明治四十一年一月廿二日發行

定價金五拾錢

著者 石垣六三郎

發行者 宮越信太郎

印刷者 垣内伊太郎

印刷所 丸利印刷合資會社

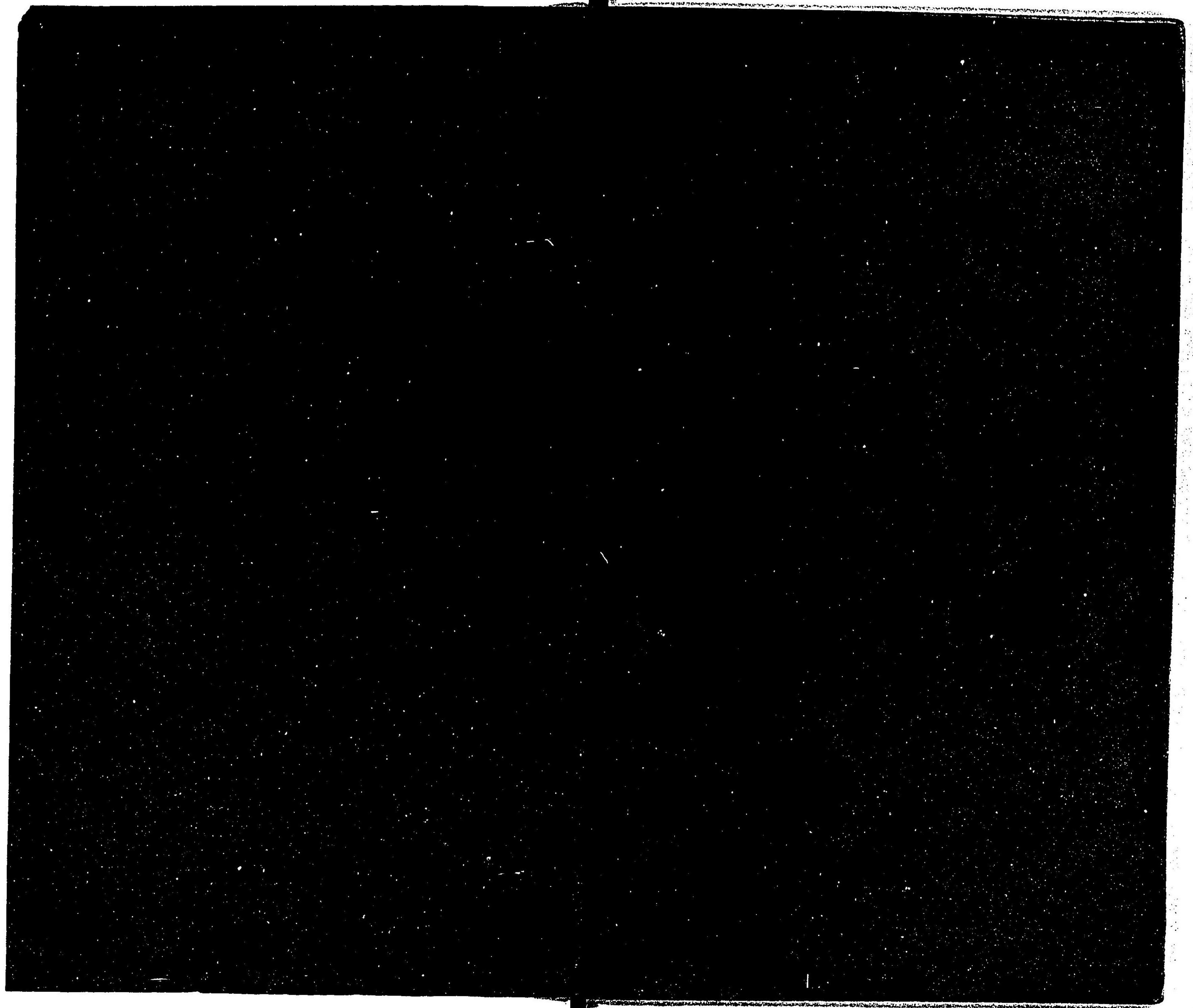


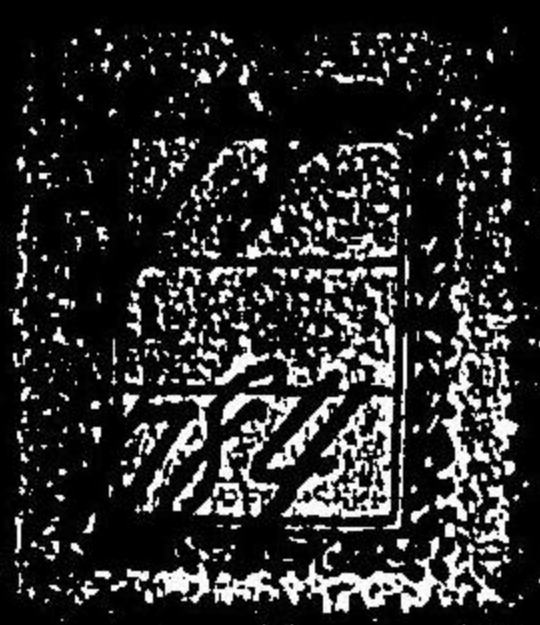
發行所

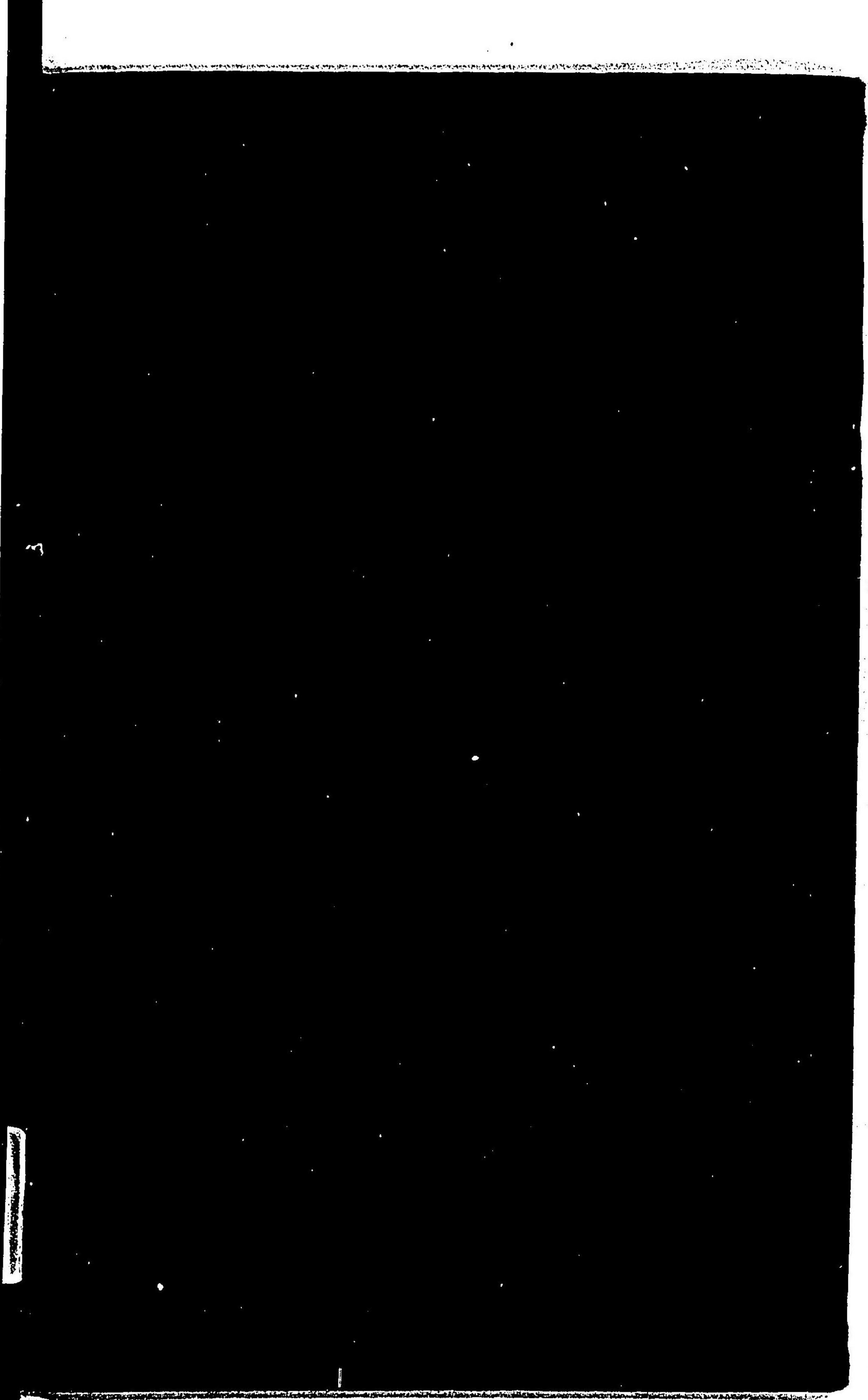
新潟縣中頸城郡
高田町吳服町
東京市日本橋區
本銀町三丁目

高橋書店
鍾美堂

18
784







18

784

072695-000-9

18-784

新撰樂曲問答

石垣 六三郎/著

M41

CEH-0215



